

2018年度 藤沢白門会の活動



会員が一堂に会する中、第24回定期総会開催を宣言する片岡会長
(平成30年4月30日)



第22回 SUC 親睦交流会、プロ歌手の山形雄子さんと
好調にデュエットを披露する川俣事務局長 (平成30年10月6日)

2018年度 藤沢白門会の活動



ホームカミングデーでのイベントの一つ「白門駅伝」にて、
この真夏日の中を走り抜ける藤沢白門会の精鋭達（平成30年10月7日）



同日、セントラルプラザでは学生の演舞で盛り上がり大宴会を催す
（平成30年10月7日）

2018年度 藤沢白門会の活動



じりじりと追いつける復路後半、混戦の中の八区を激走する矢野郁人選手（右奥）
今年は最後まで目が離せませんでした（平成31年1月3日）



十区のラストゴールを目前にして強豪早稲田大学との競り合いに
総立ちになって藤沢白門会の声援を送る（平成31年1月3日）

2018年度 藤沢白門会の活動



新春の集いで、千葉景子顧問による乾杯
市民会館第1展示集会ホールで盛大に催されました（平成31年1月16日）



「平成最後の」新春の集い
全員で笑って、新しい時代へ踏み出しましょう！（平成31年1月26日）

第 23 号 目次

グラビア
会長挨拶

『新しい時代にチャレンジ』

中央大学学生会藤沢白門会 会長

片岡久興…………… 6

会員随想

文芸評論家 尾島政雄氏との出会い～その後（追想）
藤沢白門会と出逢い、学生時代を振り返ってみて
今できることを全力に
伝統工芸を支える心

大木樹雄…………… 11
崔洋誠…………… 14
岩寄有加里…………… 16
細谷幸夫…………… 18

藤沢白門会の行事活動

第 24 回定期総会開催 ～新役員の誕生～
新時代も挑戦しよう ～平成 31 年新春のつどい～
第 22 回 SUC 親睦交流会開催
加盟校 14 校 オブザーバー上智大学が初参加
第 27 回 ホームカミングデー
母校中央大学の力と誇りを語る
第 3 回白門駅伝大会参加について
第 95 回箱根駅伝予選会について
予選会 8 位通過、本戦での巻き返しを誓う
第 18 回神奈川県下合同白門会開催
新学部開設・箱根駅伝の話と華やかな応援団の演舞
第 95 回箱根駅伝について
惜しくもシード権獲得はならずとも実りある 11 位完走
第 11 回若手懇親会ボウリング大会&パーティー開催
社会福祉活動委員会

川俣誠…………… 23
井出豊…………… 25
杉山洋…………… 28
吉原和義…………… 30
城崎芳彦…………… 32
城崎芳彦…………… 33
吉原和義…………… 34
城崎芳彦…………… 36
大橋賢也…………… 38
端山幸夫…………… 39

サークル同好会活動

ゴルフサークル
テニスサークル
釣りサークル
囲碁サークル
緑と歴史散歩サークル
ワインサークル
音楽鑑賞サークル
白門サロン会

川俣誠…………… 43
重田博章…………… 46
大沼敬正…………… 47
中谷哲夫…………… 48
澤田英樹…………… 50
西尾雄一郎…………… 52
座間毅…………… 54
林孝靖…………… 60

文芸・文化コーナー

藤沢白門俳句
絵手紙を画く
美術（色鉛筆画・書道について）

服部治…………… 63
石原昭憲…………… 64
城崎芳彦…………… 67

母校の近況

藤沢白門会組織図・新入会員・物故者
藤沢白門会讃歌 中央大学校歌 応援歌 惜別の歌
お願い

…………… 69
…………… 77
…………… 79
…………… 83

新しい時代にチャレンジ



藤沢白門会

会長 片岡 久興

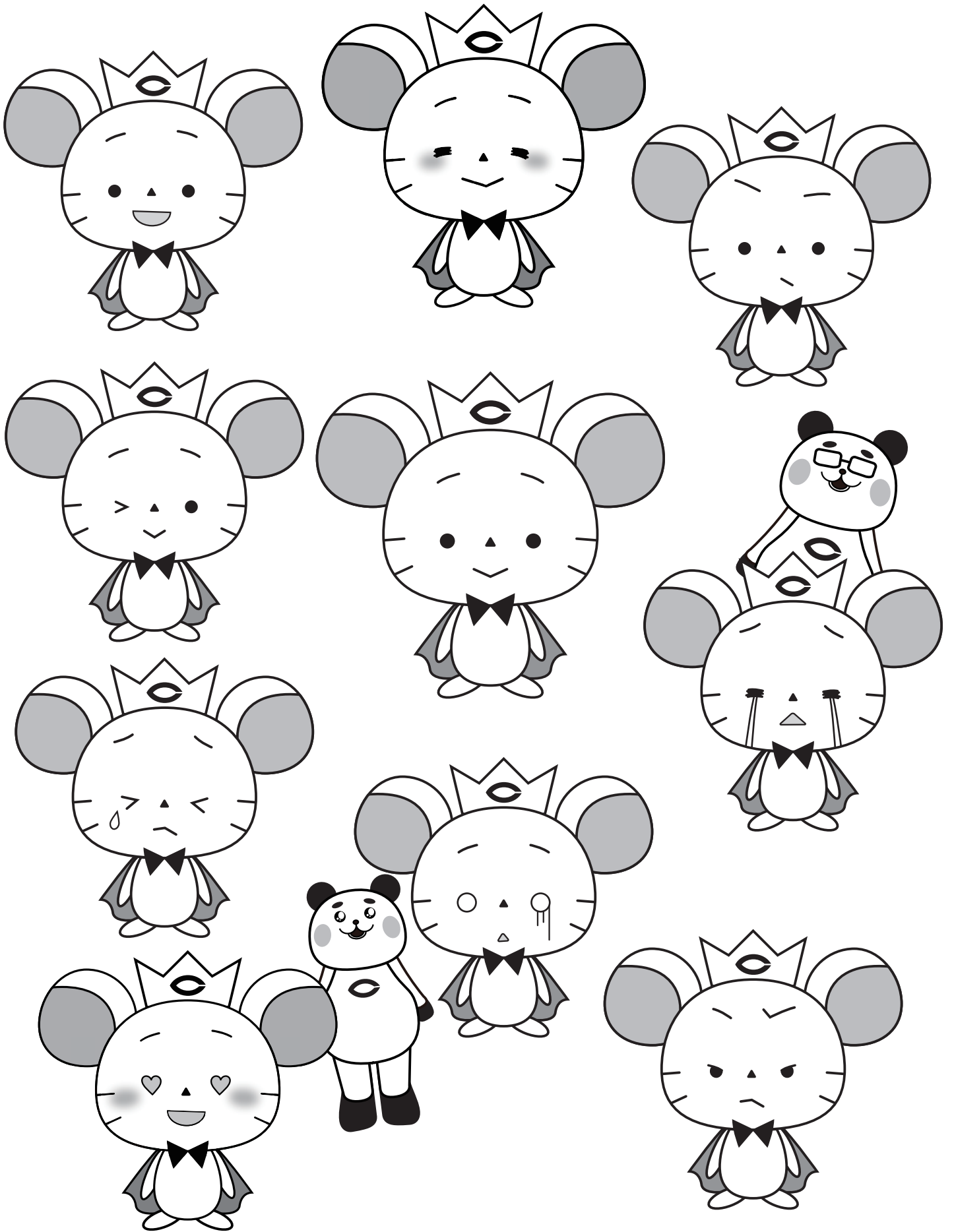
昨年4月の定期総会に於いて新しく中堅クラスの副会長が選任され、若返った新体制でスタートしました。担当役員の努力と会員の協力により計画した行事は順調に進んでいるところです。ただ、台風の影響で8月の地引綱大会が残念ながら全て中止せざるをえませんでした。

箱根駅伝について私達は一生懸命応援をし、選手諸君もそれなりに頑張ったと思いますが、シード権に1分17秒足りず、またしても予選会からとなってしまいました。1人平均にすれば約8秒です。このことを肝に銘じて選手諸君の一層の奮起を期待します。

昨年の漢字は「災」でした。確かに想定外と言われるような豪雨、地震、猛暑、台風が相次いだ年でした。今年は「災い転じて福となす」で被災された方々にも「福」をもたらす良い年であってほしいと思います。そして5月から年号が変わります。平成が終わり日本の明日を切り開く新しい時代の幕開けとなる訳です。

藤沢白門会における当面の課題をクリアーしていく為に、今年は全員で挑戦、チャレンジしていかなければと考えております。まづ積年の課題である会員を増やす取り組みですが、昨年は発想の転換をして募集方法を変えたところ、今迄にない反応がありました。今年はこれをさらに発展させ大いにチャレンジして目標である300人を達成しなければと考えております。

次に、サークルの活性化です。昨今のサークル活動は参加者の減少傾向と固定化が見受けられます。つまり新しく入会された会員があまり参加を



今号は中央大学のゆるキャラ「チュウ王子」と「ハクモン」に、登場いただきました。
 いくつ見つけられますか？

會員隨想

(掲載順不同)

文芸評論家

尾島政雄氏との出会い～その後（追想）

昭和 39 年法学部卒 大木樹雄

10 数年ほど前私は「緑と歴史散歩サークル」の幹事役を務めていました。サークル会員の年齢層を考慮し冬季は戸外の歴史散策に替え、暖房の利いた室内で学ぶ座学のほうが時機を得ているとの思いで平成 17 年 2 月新春教養講座を企画した。済美館に文芸評論家の尾島政雄氏をお招きし「湘南のルーツと湘南の作家たち」と題する講演をお願いした。講演後は会場を「煌蘭」に移し新年会を兼ねた懇親会を催した。詳しくは当時の会報（第 10 号）に掲載されているので省略させていただきますが、この新企画は多くの参加者から好評の声が聞かれた。数日後尾島氏から葉書が届いた、懇親会に招待された礼状である。丁寧な筆致で参加者の前向きな生き方に感服したこと、今後も機会を得て一緒にいたいことなどが認められた短い文面から人生の機微を教えられた。

この講演を機に毎年冬季に文学歴史を訪ねる尾島講座を企画するようになった。良寛さんと一茶の生きざま（18 年）、俳聖「芭蕉」の生きざま（19 年）、啄木と賢治の生きざま（20 年）、太宰治～生誕百年の異才のいきざま～（22 年）、通算 6 年ほど続いた。尾島講座はいつも人気があり毎回 40 名近い参加者が集う盛況ぶりであった。



平成 19 年、「井上靖旧邸」で一行の記念写真

尾島政雄氏については、新春講座に参加された方は皆よくご存知ですが、初耳の方もおられることと思いますので、プロフィールを簡単に紹介します。

氏は平塚市生まれ、湘南高校～早稲田大学卒、中央公論編集次長、川端康成・井上靖らの文士と親交を持つ、なかでも7歳上の三島由紀夫とのエピソードは数多い。定年を待たずに文筆家に転身し、平塚・藤沢・鎌倉などで30年以上文学歴史講座を開いている。湘南生まれ湘南育ちの文芸評論家です。

藤沢白門会と縁ができたころ尾島氏は市民向けに魅力的な講座を開いていた。市内の公民館主催の事前講座のあと日を改めて、作家ゆかりの地を訪ねる企画で、平成18年秋“文学への誘い～「太宰治編」”に私も参加する機会を得た。太宰が2ヶ月余り滞在した御坂峠の「天下茶屋」を訪ねた。二階の六畳間は富士山と河口湖が一望できる絶景の部屋で、記念館風になっている。当時使用されていた「机」や「火鉢」が置かれていて往時が偲ばれ、「富士には月見草がよく似合ふ」の名作「富嶽百景」に因む記念の品々が飾られていたのが印象に残っている。



太宰治の記念碑の前で（天下茶屋近く）
「富士には月見草がよく似合ふ」と刻まれている。
（左：三浦敏宏氏 中央：尾島政雄氏 右：筆者・大木樹雄）

平成 19 年秋の「伊豆・文学歴史散歩」には白門会から三浦敏宏先輩（35 年経卒・故人）、富田邦夫氏（40 年商卒、茅ヶ崎在住）と私の 3 名が参加した。

最初に訪ねた湯ヶ島は井上靖の自伝小説「しろばんば」の舞台になったところである。主人公洪作（井上靖）が学んだ湯ヶ島小学校（現在は閉校）を見学した。校門に足を踏み入ると洪作とおぬい婆さん（洪作の義理の曾祖父の妾）のオブジェの銅像が目に入りのどかな光景が印象的であった。

洪作が湯ヶ島小学校に通っていた頃の大正 7 年（1918 年）には後のノーベル文学賞作家川端康成が伊豆へ一人旅に出ていたことを思い、ロマンを覚えた。一高入学の翌年川端 19 歳の秋である。この旅で川端は湯ヶ野温泉の「福田家」に一泊している。私たちは河津川に架かる木造の橋の袂に建つ、その「福田家」を訪ね見学させて頂いた。川を挟んで宿の向こう岸には「共同浴場」が今でもあり、翌朝「踊り子」が裸で手を振るあの有名な場面が彷彿と目に浮かぶようであった。“井上靖・川端康成ゆかりの地を往く”～「しろばんば」「伊豆の踊り子」の舞台・天城路～この文学歴史探訪は忘れられない味わい深い旅になった。



一高生川端康成が一泊した「福田家」（湯ヶ野温泉）

後任の澤田幹事の発意で、平成 25 年 2 月久しぶりに尾島氏に新春講演のお願いをし、NHK の大河ドラマにちなみ「八重の桜とその背景」をテーマに講演をして頂いた。激動に生きた山本（新島）八重を中心に明治維新の時代背景、会津や薩長の藩風、時の人物像を生き生きと語る流暢な尾島節は会場の参加者を魅了した。

大病後ということもあって健康面の気遣いをしていましたが、久々に元気な尾島氏の姿に接しほっとした。ところが翌平成 26 年 5 月尾島氏急逝の訃報を知らされた。82 年の生涯であった。

今私の机の上に生前尾島氏から戴いた 1 冊の小冊子がある。ご本人の著書で母校湘南中学創立から校歌制定までの苦難の歴史と関係者のドラマが綴られている。湘南中学は大正 10 年（1921 年）創立の新設校、初代校長赤木愛太郎は情熱の人で「湘南中学を日本一の中学にする」という強い意欲に燃えていた。学校のバックボーンである校歌の作詞・作曲は一流の人物に依頼しなければならないと考えていたのも当然である。

校歌制定には校長はじめ音楽教師、学校関係者が奔走努力したことは言うまでもない。そして学校創立から 12 年後の昭和 8 年（1933 年）2 月、悲願の校歌制定が実現する。作詞北原白秋、作曲は山田耕筰である。多感な青春期にある在校生はじめ学校関係者は感動し胸を熱くしたに相違ない。

「この小冊子は湘南中高関係者の中で秘かなベストセラーになっている」と尾島氏が冗談交じりに語っていたのを思い出す。表紙の裏に「大木様 恵存 尾島政雄」2009.3.7 とボールペンで記されている。思い出の深い貴重な遺品になった。

(完)

藤沢白門会と出逢い、 学生時代を振り返ってみて

平成 19 年法学部卒 崔 洋誠

あらためて中大生だった頃を思い出してみますと、当時の自分は毎日勉学に勤しんでいました。な—んて、学生の鏡みたいで格好がつくようなことが言いたかったのですが、実に親泣かせな大学生生活を送っていたことを思い出しました。



当時の自分はバイクに夢中でした。暑さ寒さはもちろんのこと、雨風も関係なく、片道一時間半ほどバイクにまたがり、八王子キャンパスへ通っていました。講義を受けにいったのか、はたまたバイクに乗る時間を楽しんでいたのか、明らかに後者が強かったと思います。いや、ほぼ後者しかなかったです。

休みの日には、景勝地を巡ってみたり、滝を見に行ったり、あるいは友人とともに県外へ足を伸ばして温泉巡りをしてみたりと、バイク中心に日々が過ぎて行ったように記憶しています。

そんな私でも無事卒業はできましたが、一方バイクの熱は下がらないまま二十代を過ごしました。三十歳を迎える前に転職の機会があり、少しばかり時間ができたので、バイクに TENT を積んで一か月半ほどかけて日本各所へまわる旅に出ました。旅を終え帰ってくるとあんなに好きだったはずが、やり尽くしたというのでしょうか、ぴたりとバイクへの興味が薄れ、手放してしまいました。

今ふとバイク以外に残ったものを見渡すと、日本各所周遊を計画したときに、各地で訪れたいところや訪れたところを携帯電話の地図に地点登録していたのですが、気づいたらお気に入りマークだらけの地図が出来上がっていました。



そしてようやく気づきました。
自分の趣味は見たことない風景、
場所を見て感動を覚えること
だと。

お気に入りの星印一つ一つに
その時に見た感動が詰まって
おり、その星を見る度「また
行きたいなー」なんて思って
現実から逃避することしばしば。

白門会の諸先輩方から国内外
問わず、「ここは行くべき！見て
おくべき！」というおすすめの
場所を聞いて、手元の地図に

ピンを刺していつか行こうと思っておりますので、ここまで読んでいただいた方はもれなくぜひ
教えてください。



さてさて、伝統ある中大の門をくぐったとは思えない、このような私でございますが、藤沢白門会
との出会いは2年前の夏だったと思います。

たまたま上司に代わって出た異業種交流会で、杉山先輩と出会ってなければ、こうして書かせて
頂く機会に巡りあえてなかったかもしれません。

最初にお誘いを受けて、初めて参加したのはボウリング大会。

胸いっぱい期待を膨らませ、自転車にまたがっていざ家を出発したものの、持ち前の人見知り
な性分がペダルを漕ぐ度に見え隠れして、江ノ島ボウルに着く頃には緊張感の方が優っていたのを
今でもよく覚えています。

そんな私を皆さんがあたたかく迎えてくださって、いざボウリングが始まるとその緊張は次第に
和らぎ、大会が終わる頃には楽しい会話に夢中な自分がいました。

「入って良かったなあ。」

ちょうど当時の自分はというと、家と職場の行き来で時間は流れ、束の間の休日は家から出る日は
少なく、ただただ一日を無駄に過ごしていました。また、友人たちと会う機会は激減、他愛もない
話で笑う時間が少なくなっていました。そんな中、母校のOB会という、オフの時間で人と出会い、笑い、
楽しめる場に出会えたのは本当に好機でした。

「今回も行って良かったなあ。」— 顔を出す度そう思う藤沢白門会です。

先輩方、これからもどうぞよろしく願いいたします！

今できることを全力に

平成 28 年総合政策学部卒 岩寄有加里

この言葉は常日頃、学生時代から大切にしている恩師の言葉です。

私は、生後半年から水泳を始め、高校・大学と日本一のチームで仲間と共に夢を追いかけていました。記録が思うように伸びない時や、水泳を辞めたいと思った時期など今振り返ると、たくさんの壁がありました。家族・部活の仲間・中央大学の仲間、地元や高校の友人や恩師など数えきれない程の人たちに囲まれながら競技を続けてきました。今回は、私の人生を賭けた「水泳で得た経験」について紹介したいと思います。



中央大学水泳部「Marauder」全員集合！

水泳は、私の人生だと思っています。学生時代、一日の半分はプールで過ごし、教職と学部の授業の課題に追われながら、タイトなスケジュールで過ごしていたことを覚えています。入学当初は、部活の仕事や慣れない大学生活で何度も水泳から離れようと思いました。記録も大学に入ってから3年間、自己ベストが一度も出ない時間があり、逃げ出そうとも考えました。「何の為に水泳をしているのだろう。なんでこんなにきつい練習をこなしているのに記録が出ないの

だろう。早く4年間が過ぎないかな。水泳なんてやっていなければよかった。」そう考える日々もありました。そんな私をいつどんな時も支え続けてくれた、家族や友達、部活の仲間など今でも感謝してもしきれません。中央大学水泳部は強豪校と呼ばれるチームで、在学中は何度も日本一のチームになりました。そんなかけがえのない仲間の支えや応援して下さる方がいなかったら、きっと私は水泳を諦めていたと思います。周りの支えがあったからこそ、今の私がいます。

大学に入り、3年間一度も高校の頃の自分の記録に勝てない時期が続いた辛さを今でも忘れません。チームとしては日本一に輝いているのにも関わらず、貢献しきれていないもどかしさ、悔しさがありました。そんな時、自分自身を奮立たせてくれた言葉があります。「今できることを全力に」小学校の頃から指導して頂いている、恩師が言い続けてくださった言葉です。どんな状況に置かれたとしても、後々後悔しないためにも今できることをコツコツやる大切さを、感じました。これは水泳だけではなく、生きていく上で大切なことだと思います。

大学四年、これでラストの水泳人生だと思い、臨んだ日本学生選手権。それまで一度も結果を残すことが出来なかった自分でも、後輩たちに伝えたい思いや今まで支えてくださった方への恩返しとして、結果で残そうと決めました。予選、8位通過でベストから程遠い記録でしたが、何とか決勝に残りました。そして、決勝では、ベストには及ばなかったものの、3位に入賞し表彰台上に上がりました。そのとき、仲間や家族、卒業した先輩や地元・大学の友人が泣きながら喜んでくださった事を今でも鮮明に覚えています。「諦めなくてよかった。みんなありがとう」そんな気持ちでいっぱいになりました。

同年代の仲間たちは、その試合を最後に引退することになりましたが、私はやっとの思いで残せた結果であった為、もう少し頑張ってみようと思い、引退せず水泳を続けることに決めました。その年は、半年後にリオオリンピック選考会があった為、そこの試合に向け、再び努力しつづけました。

選考会当日、今までにない緊張感の中、幼いころから指導していただいているコーチと共に、この日を迎えました。多くの人に恩返しをしたい、その思いだけで泳ぎ切ったレースでした。

結果として、4年ぶりの4秒ベストで5位に入賞しました。オリンピックには届かなかったものの、今までの経過は間違っていなかったと思える試合でした。

この試合を最後に、私は水泳を引退し、無事社会人となりました。しかし、水泳からかけ離れた生活になり、寂しさと当時のような熱くなる気持ちはもうないのだろうと思っていましたが、社会人3年目に入った頃、もう一度水泳で東京オリンピックまで悔いなくやりたい。そんな思いが溢れ、現在、地元のスイミングクラブで学生時代指導してくださっていたコーチの元で競技をしています。

今は仕事と水泳の両立で、毎日朝練をしてから出勤をし、仕事後に夕練を行っています。二年間のブランクがあっても、やり抜く気持ちさえあれば私は不可能なことはないと思います。現役復帰し、約半年が経とうとしていますが、日本選手権の派遣記録も突破し、記録時代も当時の現役の頃のタイムまで戻ってきています。東京オリンピック選考会までの残りの時間、一日一日を大切に、大好きな水泳で悔いなく自分のやるべきことを最後までやり抜きたいと思います。

そして、中央大学に入っていなければ、今の私はいないので心から感謝しております。実は私の祖父も中央大学OBであり、こうして白門のご縁が切れずにいられることがすごく嬉しいです。今後とも白門とのつながりをより一層大切にたくさんの思い出を作っていきたいです。

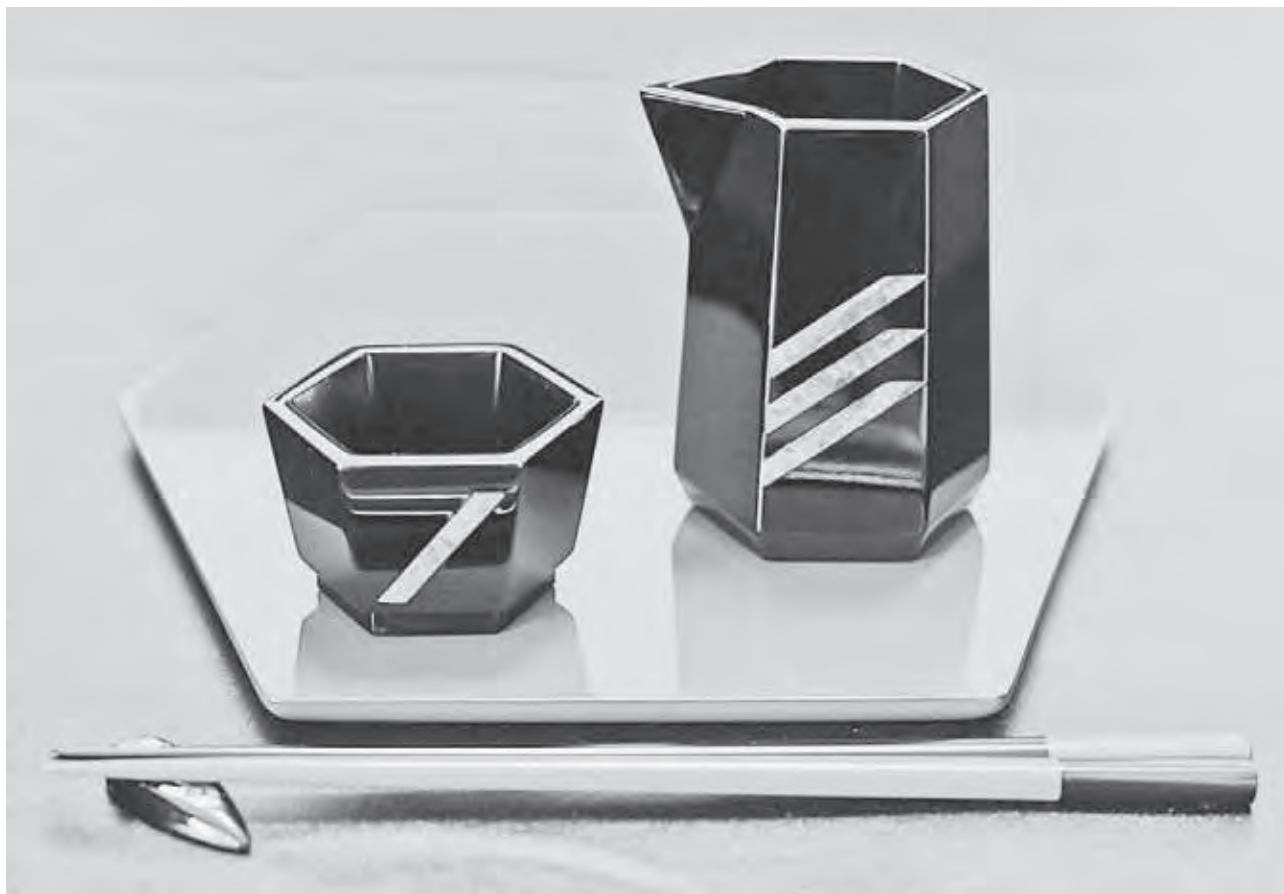


日本学生選手権にて、努力が実を結んだ表彰台（筆者：右）

伝統工芸を支える心

昭和 61 年法学部卒 細谷幸夫

はじめまして。昨年、藤沢白門会に入会致しました細谷（ホソタニ）と申します。どうぞよろしく
お願い致します。紙上で恐縮ではございますが簡単に自己紹介をさせていただきます。



昭和 36 年生まれの現在 58 歳。石川県輪島市内の小学校・中学校・県立輪島高校から法学部に入学。
多摩校舎移転後の 4 期生になります。当時の校舎は白くピカピカでこんな綺麗な校舎で授業が受け
られるなんてと学校に行くのが楽しみでした。ただ、今のようにモノレールはなく京王線の多摩動物
公園駅から徒歩で山道を登らなければなりません。おまけに、途中の立看には「野犬、毒バチ、マムシ
に注意！」と書いてある。更に夜になると動物園内の動物の遠吠えが聞こえ緊張しながら山道を下りて
いた記憶があります。3 年次には家永三郎先生のゼミに入り学びました。後に先生は 2001 年の
ノーベル平和賞候補に挙げられました。

卒業後はカメラメーカーに入社。営業、販売企画、商品販促等の部署を経験。事業計画の策定、
商品カタログや販売マニュアル作成、顧客管理システムの設計等々、色々な部署を経験しました。
そうした複数の部署での業務を経験したことが現在の自分自身を形作っています。自分の中では
東日本大震災を経験したことが人生の転機になりました。それまでは自分のことが中心だったのが
「何か社会の役に立ちたい」という思いが強くなりました。4 年前に会社の役職定年を迎えたタイミング
で社内の CSR 本部東北復興推進室（仙台）への異動を希望。2 年間、岩手、宮城、福島県の被災自治体の

サポートに従事しました。その後、2年半前に帰京し現在は営業に復帰し藤沢市内に住んでいます。また、子供が現在法学部に在学していることから大学の父母会活動に参加。昨年からは神奈川県支部長を努めています。これも私にとっての身近な社会貢献と考えています。



実家は代々輪島塗の職人の家系で高祖父は絵師、曾祖父は指物師、祖父は下地師、母は砥ぎ物師だったことから職人のDNAを受け継いでいるようです。実は子供の頃から輪島塗の絵師を夢見ていました。ただ、この時点では先のことは深く考えずに高校受験を迎え、工業高校の工芸科を進学するも思い描いたものと現実とのギャップに挫折。当時の輪島塗は塗師屋が長年もっている絵を写して描くというものが多く、自分が思っていた新しいデザインを取り入れようとする土壌がないと感じたのが理由です。

翌年普通高校に入り直して以降は絵師の夢を断念していました。歳を重ね輪島塗の現状（輪島塗に従事していた同級生はバブル以降、職を失い、今も輪島塗の仕事に携わっている者は半数に満たないと思われま）を垣間見る度に「新しい魅力ある作品を作り、少しでも故郷の役に立ちたい」という願望が強くなり、5年前から自らの作品を作り始めています。国内には塗物の産地が50ヶ所弱あります。その中でも、輪島塗は日本の塗物の最高峰と言われています。その特徴は「堅牢」、「優美」、「安全」の3点です。



-
-
1. 「堅牢」：丈夫で長持ち。木に直接漆を塗るのではなく、布を貼り木地を強化。また、輪島で採取される珪藻土を漆に混ぜることで表面を更に硬化(ガラスコーティングに近い)させます。
 2. 「優美」：沈金や蒔絵、螺鈿を配する。その優美しさを長年にわたって維持します。
 3. 「安全」：「食の安全」が社会問題化する中、食器に対しても安全が求められています。輪島塗の材料は木とその樹液です。すべて自然のものです。また、輪島塗の実際の製造工程は「124工程」ともいわれるほどに複雑です。世代物「3世代(100年)もつ」といわれる程に耐久性があるのですが、その分手間暇を要しコストが嵩みます。価格面が合わずプラスチック製品は勿論、他産地の漆器に押されているのが現状です。

製作するものは酒器、日常使う食器類、女性用のアクセサリーが中心です。いずれも螺鈿をデザインのポイントにして制作しています。4年前に故郷の輪島市内で初の個展開催が実現。その後、輪島市、福島県(帰還困難地域にある自治体の要請)にて個展を開催。3年前からは地元藤沢市内にて個展を定期的で開催しています。併せて、2年前から書道出版の会社からの依頼でブログ(※)を書いています。

ご興味がありましたら、覗いて頂ければ幸いです。輪島塗に携わる家に生まれたことを誇りに、輪島塗を本来の良さを活かしつつ更に一層ブランド化する。一方で別の角度から再評価してもらえるように新たな魅力や用途を開発・提案する。出来るだけ多くの日本人、外国人に見て評価を頂くことで日本を代表する伝統工芸の維持・復興に微力ながら貢献出来れば嬉しいです。

(※) 天来書院ブログ「螺鈿と輪島塗」細谷忠兵衛



藤沢白門会の行事活動

第24回定期総会開催

～新役員の誕生～

平成30年4月30日（月・祝）藤沢市民会館第2展示集会ホールにて第24回定期総会を開催した。前回の総会までは、医療講演会を第一部として開催していたが、総会、懇親会に比して出席者が少ないため、第一部を定期総会、第二部に医療講演会、第三部を懇親会という組み立てにした。これが奏功して昨年より大幅に医療講演会の出席者数が増える結果となった。



第一部、各議案が滞りなく承認される

第一部の定期総会には53名が出席した。冒頭1年間の物故者に黙祷を捧げた。次に校歌斉唱、片岡会長あいさつと続き、会長が議長となって議案の審議に移った。「平成29年度活動状況報告」、「平成29年度収支決算及び監査報告」、「平成30年度行事計画（案）」、「平成30年度収支予算（案）」、「役員改選（案）」の各議案が説明、提案され、質疑応答のあとすべて承認された。

議案の中で特に注目すべきは、役員改選（案）である。役員改選期にあ

たった本総会では、若林貞行副会長、川島清憲副会長、八城義友副会長が退任された。長年にわたり、藤沢白門会の継続、発展にご尽力いただき、深く感謝申し上げたい。今後も相談役として大所高所からご意見を頂戴したい。これに伴い、吉田弘明副会長、杉山洋副会長、端山幸雄副会長が新しく就任された。吉田副会長は会報委員会の総括担当、杉山副会長は渉外委員会の総括担当、端山副会長は社会福祉活動委員会の総括担当として、今後の活躍を期待したい。その他に、北口勝敏氏（S49卒）、久保田隆司氏（S50卒）、諏訪間幸平氏（H12卒）、崔洋誠氏（H19卒）、岩寄有加里氏（H28卒）の5名が役員（理事）に就任された。新しい風を起こしてほしい。

第二部の医療講演会では、湘南藤沢徳洲会病院栄養管理室の高橋敬子（ひろこ）主任から「ずっと若く生きるために～アンチエイジング～」についてお話頂き、51名の出席者が熱心に耳を傾けた。いつまでも若く、元気であるためには、血糖値を急激に上下させない、血糖のコントロールが大切であり、そのための秘訣について詳しく解説していただき、出席者はしきりに感心していた。



第二部の医療講演会
皆さん興味深く聞き入っていました

第三部の懇親会には 56 名が出席した。片岡会長の冒頭あいさつでは、会員数を 300 名に増やすことを目標とする決意が述べられた。高齢化に伴う会員の減少は近年著しく、これに歯止めをかけるために何をなすべきかを会員に呼び掛け、協力を仰いだ。

また、大学、学会からの来賓招待について、今回の総会からこれを取りやめることとした。その理由として、県内他支部では年に 1 回、総会の折に来賓を招待しており、本会は総会及び新春のつどいの年 2 回となっていることから、県内他支部に倣い、「新春のつどい」にのみ来賓を招待することとしたためである。従って、今後の総会には来賓を招待せず、会員のみによって行うこととした。

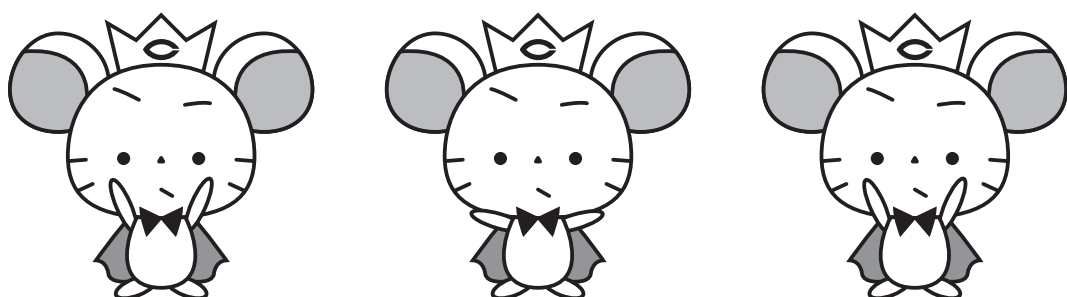
会長あいさつに続いて藤沢白門会讃歌斉唱のあと、新しく就任された若林相談役が乾杯の発声を行った。会の半ばでは、初参加者や新旧役員のあいさつが行われ、盛大な拍手が送られた。

最後に全員で応援歌を斉唱し、澤田副会長の締め言葉で閉会となった。

(副会長 川俣 誠)



鉢蟬顧問による応援歌斉唱での演舞、この堂々たる立ち居振る舞い！



チャレンジ 新時代も挑戦しよう ～平成31年新春のつどい～

平成31年1月26日（土）午後1時30分より藤沢市民会館第1展示集会ホールにおいて、中央大学藤沢白門会の平成31年新春のつどいが約100名の参加のもと開催されました。

総合司会を務める川俣誠事務局長の、平成最後にふさわしい楽しい会にしたいと思いますという開会の言葉で幕を開けました。

最初に片岡久興会長挨拶として、今季最大の寒波襲来の中での御出席について、御来賓の皆様をそれぞれのお名前、団体名を挙げながらの感謝の意が述べられました。そして昨年4月に行われた本会総会において役員交代を行い、副会長をはじめとして若返ったこと、また事業計画は順調に推移していると報告されました。

そして今年の漢字は相次ぐ自然災害を受けて「災」となったが、災い転じて福となすよう改元後の新しい時代に挑戦していきたいと思っている。その一つとして会員数の拡大に向けて募集の方法を変えたところ、功を奏していることが紹介されました。またサークル活動について、参加者数の減少と参加者の固定化打開に向けて会員の意見を出してもらっているなど、種々挑戦していきたいという決意が述べられました。

最後に、ホームカミングデーでの白門マラソンに藤沢白門会として単独参加に挑戦し、暑さの中で奮闘した結果、真ん中（中央）の順位で完走したことも挙げ、「挑戦無くして活発な活動無し」の精神を持って進むための協力を呼びかけて挨拶を締めくくりました。



挨拶に登壇する片岡会長



続いて御挨拶いただいた久野学院会会長

続いて御来賓の大橋正和中央大学常任理事と久野修慈中央大学学会会長より御挨拶をいただきました。

大橋正和中央大学常任理事からは、大学の動きのご紹介をいただきました。まず多摩キャンパスでの国際経営学部、市ヶ谷田町キャンパスでの国際情報学部の新設と英語のみのカリキュラムの導入や情報法学を学び、ビジネスリーダーを養成する等、それぞれの特色が紹介され、両学部で合わせて六千人の出願があり、全体で初めて九万人を超えたことが紹介されました。

また国際教育寮とグローバル館が建設中であり、

重ねて学部共通棟を造る事業計画、法学部を都心に移転するために茗荷谷の都有地（東京都交通局都営バス大塚支所跡地）を借地することが決まったことが紹介されました。最後に中越支部から贈られた錦鯉が多摩キャンパスで繁殖中であることにも触れられ、多摩生まれの錦鯉に会いに来てくださいとのお誘いで締めくくられました。

久野修慈中央大学学員会会長からは、ご自身の経歴に関連した話題から、横浜スタジアムの建設関連のエピソードとして、現オーナーとベ이스ターズが優勝するにはどうしたらよいか話し合ったこと、優勝すれば県民にとって励みになるはずで、これは箱根駅伝も同様なので、強い覚悟と決意を持って臨んでもらいたいと激励されました。

もう一つ捕鯨について、IWC 脱退を政府が決めたという話題から、現在では捕鯨について国民の理解が少ないが、戦後の食糧難時代に漁師達が南極まで捕りに行き、国民に提供した経緯を紹介した上、脱退の決定に関係した中央大学出身の二階俊博現自民党幹事長と大学の関わりに触れ、感謝を述べられました。

最後に、現在、文科行政の中で中央大学の姿が見えず、慶応や早稲田ばかりな様に見えるので、より一層中央大学の発展に力を尽くしたいと述べ、御挨拶を締めくくられました。

続いて千葉景子顧問の音頭での乾杯を行いました。秋の叙勲での旭日大綬章の受勲に対してのお礼を述べられた上、皆様の御健勝を祈り乾杯いたしました。

続く懇談中、御来賓である SUC 親睦会の慶応大学藤沢三田会、早稲田大学藤沢稲門会の皆様、横浜白門会、川崎白門会、平塚白門会、茅ヶ崎白門会、逗葉白門会、小田原白門会、大和白門会の皆様及び今年初めてご参加くださった、父母連絡会神奈川支部からの現役学生とその御両親が紹介されました。続けて中央大学理事長・総長・学長連名の祝電が読み上げられました。



箱根駅伝の名物解説者、確井哲雄さん（写真右）によるサイン本頒布（37 ページ参照）

懇談中、会場で御著書の「箱根駅伝 強豪校の勝ち方」をサイン入りで販売して下さった確井哲雄さんが登壇し、今の中央大学は力が無く、伝統校が凋落する中、選手は強豪校に行きたいと思っているのが現実で、勝つためにどうするか、昔はどう勝ってきたか学んでほしい、と厳しいエールを送られました。

アトラクションとして懇談に花を添えたのはジャズシンガーの歌織さんと軽音楽部 OB で構成するバンド GGTR のコラボレーション。今回は特別にこの時間に歌織さんのリードで藤沢白門会讃歌を皆で合唱してから演奏が始まりました。

楽しい時間もあと少しというところで、杉山洋副会長の司会によるお楽しみ抽選会。今年も会員からの提供により豪華な景品がそろい、盛り上がるひとときとなりました。

鈴木恒夫藤沢市長のご公務のご都合により、恒例の車椅子贈呈は抽選会終了後に行われました。贈呈に先立ち片岡久興会長より、本年は2台の贈呈ができ、今回で31台目となることが説明

されました。目録贈呈の後、鈴木市長より御挨拶をいただきました。「藤沢市は24%の高齢化率だが、100歳以上の方が230名いらっしゃって、元気な方が多いことが喜ばしいことです。引き続き生活に優しい市を作っていくたい」という決意が述べられました。

最後に若手会の塚本博信会員のリードによる校歌を斉唱し、参加された皆様への感謝一層の御指導・御鞭撻をお願いする遠藤主計副会長の辞により閉会しました。出口では恒例の車椅子募金が行われ、多くの御芳志をいただきました。

最後に近年にない寒さの中、本年もこのように新春のつどいを盛大に開催できましたこと、改めて御来賓、会員の皆様に厚く御礼申し上げます。



(親睦行事委員会 井出 豊)



大盛況の抽選会、皆様
当選おめでとうございます！



第22回 SUC 親睦交流会開催

加盟校 14 校 オブザーバー上智大学が初参加

第22回 SUC（湘南ユニバーシティークラブ）親睦交流会が、平成30年10月6日（土）湘南クリスタルホテルで開催されました。今年は日本大学が幹事校となり、加盟校16校のうち14校、オブザーバーとして上智大学（ソフィア会）の特別参加を含めた15校、総勢111名が参加しました。

第一部の記念講演は、津曲茂久・日本大学生物資源科学部特任教授による「人と動物の生涯にわたる生殖学講座」と題しまして、約1時間15分講演されました。

第一章「有性生殖」から始まり「生殖器の進化」、「ホルモンはおもしろい」「雌雄の繁殖生理」、「性感染症」、「生殖医療」、「悪しき生活習慣が人口減少に繋がる」、「人類が初めて経験する超高齢人生と性」の八章までを非常に分かりやすく、興味深い講義でした。これからの社会保障問題全体の在り方、医療問題との関わり、認知症、介護問題に対して健康寿命の大切さ等が随処各々で視えました。



懇親会に入る前に、各大学からの挨拶のステージに立つ杉山副会長



和気藹々の中、懇親会がスタート

第二部の懇親会は、今年度幹事校の日本大学 校友会・湘南桜門会・佐々木透会長の代表挨拶を開会の辞とし、鈴木市長の挨拶、続いて早稲田大学・藤沢稲門会・内田進会長の乾杯のご発声で幕を開けました。同じ地域に同窓会を持つ大学が一堂に会しての親睦交流会は全国的にも非常に珍しく、湘南という土地柄も起因のひとつではないでしょうか。

各大学から代表者による学校紹介があり、各大学の地域貢献、活動状況、様子などを知ることが出来ました。

今年度のアトラクションは、茅ヶ崎市出身のプロ歌手・山形雄子さんの独唱、続いて山形雄子さんとのデュエットが行われました。デュエットは、東海大学・宮戸光役員の「銀座の恋の物語」、早稲田大学・田中雄一幹事の「居酒屋」、明治学院大学・土谷弘行支部長の「別れても好きな人」、中央大学・川俣誠事務局長の「ふたりの愛ランド」、日本大学・小菅昭治副会長の「二輪車」と5曲披露されました。歌手・山形雄子さんも素人相手に大変だったと思いますが、上手に各パートナーと熱唱しておりました。各テーブルではお互いの再会に懐かしむ風景、初めての方との名刺交換など会場全体が和やかな雰囲気に包まれていました。

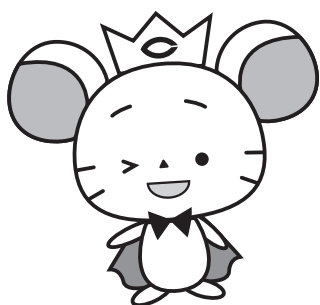
最後に来年開催幹事校となります青山学院大学校友会・湘南支部高木隆夫支部長からの再会と協力のお願いの挨拶、そして日本大学校友会・湘南桜門会・市川相談役の閉会の挨拶で幕を閉じました。和気藹々の中、再会を期する約束をしながら会場を後にし、各校各人が二次会へと散会しました。

(副会長 杉山 洋)



川俣事務局長、ノリノリでデュエットを楽しんでおられました。

当日の動画は、事務局まで！



第27回 ホームカミングデー

母校中央大学の力と誇りを語る

さまざまなイベントが行われました

平成30年10月7日(日)第27回ホームカミングデーが、中央大学多摩キャンパスで開催されました。今年は、昨年台風の影響で中止された白門駅伝も実施され、藤沢白門会から駅伝の参加者5名を含めた13名が参加しました。

10時より9号館クレセントホールにて式典と白門音楽祭が開催され、中大横浜合唱部も参加し、昔懐かしい名曲を披露しました。

イベントの一例

ビック座談会 我が人生の大いなる軌跡

中央大学を卒業し、政界、財界、法曹界、官界で経験と実績を積まれた皆さんに、母校中央大学を語って頂きました。

座談会に参加頂いた方

才口 千晴氏(弁護士・元最高裁判所判事)

山岸 憲司氏(弁護士・元日本弁護士連合会会長)

一宮 なほみ氏(人事院総裁)

尾家 亮氏(尾家産業㈱代表取締役会長)

平野 博文氏(衆議院議員)

遠藤 利明氏(衆議院議員)

司会進行は、テレビでおなじみの田崎史郎氏

約1時間30分 座談会が行われ、白熱した内容で、あっという間に時間が経過しました。参加された方の熱い母校愛を感じました。



去年とは打って変わって
夏のような日差しのなか開催



セントラルプラザに各支部
が集って日も高いうちから
大宴会が繰り広げられる

はくもん寄席

今年も、中央大学を卒業した落語家柳家小団治師匠・春風亭三朝師匠と落語研究会の方による「はくもん寄席」が開催されました。

上念 司 講演会

8号館大教室で行われ大勢の方が参加されました。

文化放送「おはよう寺ちゃん活動中」寺島尚正さん（中央大学卒）が司会している番組の月曜日コメンテーター上念 司氏（経済評論家・中央大学卒）は、10月1日番組の中で、大いに講演会の宣伝をしていました。

白門駅伝

夏のような気温の中でしたが、藤沢白門会から5名参加しました。お疲れ様でした。

今年は、台風一過、夏のような気温でしたが、各イベントは、予定通り行われました。

又、一昨年ホームカミングデーの放流式で放流した約80匹の錦鯉は、元気に泳いでいました。

初めて訪れた方は、学生時代通った駿河台と比べて広大なキャンパスに驚いていました。

参加された事のない方は、是非来年足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

（副会長 吉原和義）



最後にセントラルプラザの図書館側サイドに設営された演台の上、各支部ごとに記念撮影
お疲れ様でした！

|| 第3回白門駅伝大会参加について ||

平成30年10月7日中央大学ホームカミングデーの行事の一環として八王子のグラウンドで第3回白門駅伝大会が開催され、当藤沢白門会も参加しました。昨年は台風21号の影響で中止になり、今年は快晴の下（気温32.4度）、84チームがエントリーし、親子リレーから始まり、11時15分から2時間リレーマラソンがスタートしました。

当チームは最初6名でエントリーしておりましたが、当日遠藤さんが怪我の為、出場出来なくなり、5名で出場しました。

第1走者は原田芳一さん（H4卒）でグラウンド1周（1.1Km）を3周し、第2走者は城崎（S44卒）が1周走り、第3走者は塚本博信さん（H9卒）が2周走り、第4走者は川崎隆之さん（S62卒）が2周走り、第5走者は細谷幸夫さん（S61卒）が2周走り、最終的には原田さんが7周、城崎が2周、塚本さんが4周、川崎さんが4周、細谷さんが4周走り、2時15分にゴールしました。

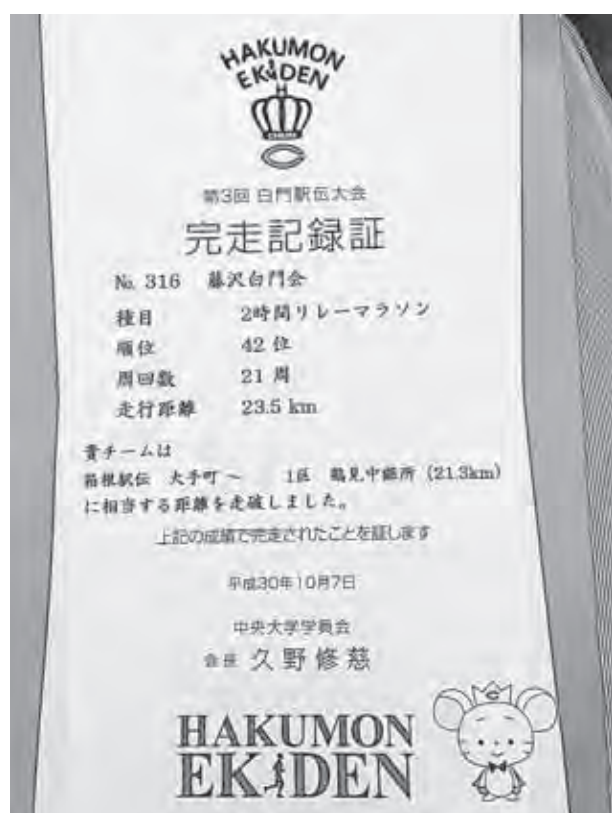
結果は84チーム(2チーム棄権)中42位でした。ちなみに箱根駅伝 大手町～1区 鶴見中継所(21.3Km)に相当する距離を走破しました。

真夏日に相当する暑さの中、皆さん怪我もなく完走出来た事を喜んでます。

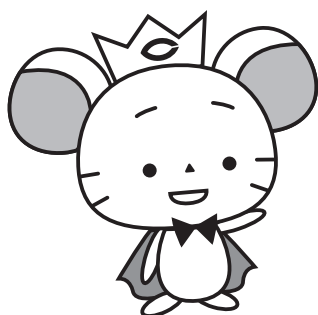
又、当日暑い中、片岡会長、大木さん、吉原さん、坂口さん、高橋さん等がグラウンドで応援して頂き、誠に有難う御座いました。

来年は要領が分かりましたので、是非参加したいと思っております。

(箱根駅伝を応援する会 城崎芳彦)



84チーム中42位！中央賞は
…ありませんでした



駅伝ボードの前で健闘を称えあう一枚

第95回箱根駅伝予選会について

予選会8位通過、本戦での巻き返しを誓う

第95回箱根駅伝予選会が10月13日（土）立川にある国営昭和記念公園で開催されました。

前回までの20キロからハーフマラソンの21.0975キロに変更されたコースで39校が参加し、12名のうち10名の合計記録で順位が決まり、上位11校が来年1月2日、3日の本大会出場となります。9年ぶりに予選会に回って駒沢大が10人の合計タイム10時間29分58秒、2位の順天大は10時間36分58秒で1位、2位の差が7分もあり、本選でも青学大、東洋大、東海大と優勝狙える選手層の厚さでした。

我が中央大は10時間42分55秒で1位の駒沢大と12分57秒の差で8位でした。

チームトップの駒沢大西選手は全体の5位で1時間01分50秒、中央大のチームトップの堀尾選手は6位で1時間01分57秒、今年も恐らく2区をエントリーされると期待しております。

以前、1年生主将だった舟津選手は集団を引張っていましたが、夏場の怪我が回復しておらず、振るいませんでした。

大きな差は駒沢大2番手以降の選手が1時間2分台2人、10番手選手で1時間3分22秒、中央大2番手中山選手はレース途中（15キロ）で汗をかいており、結果は1時間3分20秒で駒沢大の10番手に相当する記録で終わり、また2年生池田選手は35位、1年生三浦選手は53位で主将の関口選手は169位で10位二井選手は1時間5分45秒の全体の186位でした。

本選では全体の底上げが必要で7年ぶりシード権を獲得を目指す為には絶対に欠かせない要素です。

今回畝選手を予選会に温存したのは、藤原監督曰く、1月2日を見据えた時に、5区の山登りでいい流れを作りたかったという意味合いもあります。

その点で畝選手が不在でも予選会通過出来るという手応えを感じたようです。

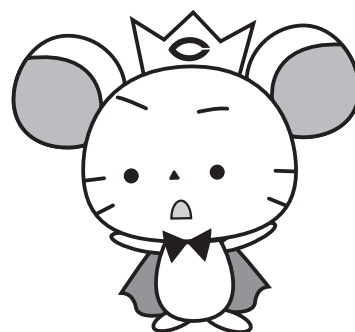
予選会シフトからシード権モードへ中央大復権の気配が漂い、復路でうまく流れに乗れば、チャンスは膨らむはずです。

11月12月箱根デスタンスに対応出来る選手を見極め、コンディションを整えられるか、藤原監督の手腕が問われる事と思います。



記念公園に設置された大型モニターから
選手たちの序盤を見守る

（箱根駅伝を応援する会 城崎芳彦）



第 18 回神奈川県下合同白門会開催

新学部開設・箱根駅伝の話と華やかな応援団の演舞

藤沢白門会から 11 名参加

平成 30 年 11 月 17 日（土）穏やかな秋晴れの日、第 18 回神奈川県下合同白門会が、ホテル横浜ガーデンに於いて開催されました。当番幹事は横浜白門会で、神奈川県内の九の地域支部・白門会と中央大学附属横浜中学校・高等学校同窓会等で概ね 100 名の方が参加されました。大学からは林常任理事、藤沢白門会からは、11 名が参加しました。

第一部「明治 150 年と横浜」

講師 明治大学教授（横浜白門会会員） 落合 弘樹 氏

ペリー来航や日米和親条約が横浜で締結

横浜開港と井伊大老

内外に難題がある中 1859 年横浜港開港

攘夷決行と横浜

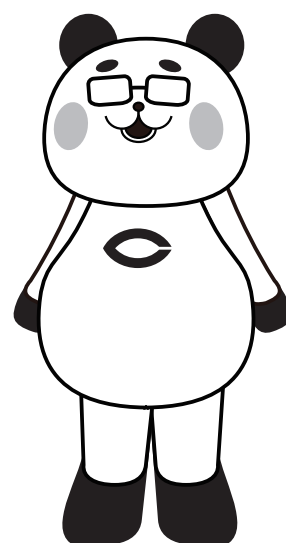
朝幕関係の逆転と攘夷行動の開始 生麦事件

江戸開城と横浜

激動の明治維新の経緯をわかり易く講演して頂きました。



日本開国に向けた江戸末期から明治維新までの歴史の流れを
ひとつひとつ丁寧に解説する落合氏



第二部 懇親会

懇親会は、当番幹事の横浜白門会小田原会長の歓迎の挨拶で始まりました。続いて来賓としてご出席頂いた林常任理事から、箱根駅伝の現状と来年新たに国際経営学部・国際情報学部が開設される事、そして法学部の都心回帰について等の話がありました。

乾杯の後、各テーブルで懇親が始まりました。

川崎白門会から小田原白門会まで各白門会のメンバーが紹介されました。

次回の当番幹事である藤沢白門会の片岡会長から次回の話がありました。

その後、中央大学応援団のリーダー部・ブラスバンド部・チアリーダー部の学生23名により中央大学校歌と応援歌が華やかに演奏されました。

あちらこちらで和やかな歓談の輪が出来、楽しい時間があっという間に過ぎました。

惜別の歌を全員で斉唱し、盛会裏にお開きとなりました。

(副会長 吉原和義)

今年も現役応援団とチアの華やかな
演舞が催されました



第 95 回箱根駅伝について

惜しくもシード権獲得はならずとも実りある 11 位完走

今回は第 95 回記念大会の為、前年のシードを獲得した 10 校と 10 月 13 日(土)に国営昭和記念公園で行われた予選会で圧倒的の強さで勝ち上がった駒沢大を始め、11 校。6 月のインカレで 1 位だった日本大。それに関東学生選抜 1 校、合計 23 校で 1 月 2 日(水)読売新聞大手町本社前を 8 時に一斉スタートし、直後 30 秒で大東大・新井選手(4 年)が転倒して出遅れしましたが、前の集団に進み、品川(八重山)、大森あたりまではかたまり出したが、蒲田あたりから集団がばらけ、昨年 1 区を走り、区間賞を取っている東洋大・西山選手(2 年)が多摩川大橋を渡り、一気に先頭に立ちましたが、我が母校中央のエース中山選手(4 年)が食らいつき、2 区鶴見中継所 1 位、2 位との差は 1 秒で区間賞は逃しました。

2 区戸塚中継所はエース区間で、各校一流選手を揃え、我が母校も二枚看板である堀尾選手(4 年)を起用し、接戦で 3 区戸塚中継所では 1 位国士館大、2 位東洋大、3 位中央大と入iri前半好スタートが切れました。3 区地元で 12 月に大学のグラウンドに激励訪問した際最初にお話ししたのが、三須選手(2 年)で、自分は今年走らないだろうと言っていました、当日エントリーし、序盤は淡々と走り、



予想以上の走法でしたが、やはり実力不足で 4 区平塚中継所では 8 位で池田選手(2 年)にタスキが渡り、多少アップダウンの大磯・二宮で順位を 1 つ上げ、往路最大の難関である山登りは岩原選手(2 年)を起用しましたが期待にたがわず、経験不足で 12 位芦ノ湖ゴールに入り、時間は 5 時間 35 分 26 秒でトップの東洋大との 9 分 30 秒でした。

昨年は畝選手(2 年)そこそこの記録で走り、今年も期待されましたが故障で彼に替わる選手は居ません

3 区の三須健之介選手。今年の無念をバネにして
まだまだ成長して行くことを期待します

でした。

初日、往路前半は予想以上の順位でしたが、3 区、4 区 5 区はやはり駒不足否めません。

復路 6 区山下りでは、昨年 1 区を走った舟津選手(3 年)を起用。彼は夏場故障し、11 月に復帰し 12 月の日体大との記録会では好タイムを出し、完全に戻ったと聞いており、期待しておりましたが順位を 1 つ下げて 13 位で流れを作れませんでした。

7 区起用の主将関口選手(4 年)は監督・選手にも人望が有り、大いに期待されましたが、逆に主将という重圧には勝てませんで、結果は 15 位まで落ちました。

8 区矢野選手(2 年)は 1 つ順位を上げ 14 位で本来この区間当たりでシード圏 10 位前後をキープしていれば 9 区 10 区に大いに期待が持てました。

しかし、9 区苗村選手(4 年)が順位 1 つ上げて 13 位、10 区川崎選手(2 年)は健闘及ばず 1 時間 11 分 55 秒、区間 6 位で総合 11 位でシード圏 10 位の中央学院大は 11 時間 9 分 23 秒、

中央大 11 時間 10 分 39 秒で 1 分 16 秒の差がありました。

それにしても前評判は青山学院大の 5 連覇は堅いといわれておりましたが、それ以上に優勝した東海大の選手層の厚さ及び両角監督は選手を把握して適材適所に選手を起用し、初優勝を成し遂げました。

次回 96 回はシード校 10 校と予選会勝ち上がった 10 校、特に今回伝統校を中心に熾烈を極め、中央大、早稲田大、明治大、日本大、日体大、神奈川大、大東大などの常連校と新興の東京国際大、麗澤大等が狙っております。



8 区の矢野郁人選手。今年は最後の追い上げに、来年に繋がる希望を見出せました

この 4 月長距離選手 10 名程入学しますが、このうち 6 名が高校駅伝に出場しており、大いに期待しております。

次回、予選会（10 月予定）を勝ち上がり、是非シード権を勝ち取れる様、応援しましょう。

（箱根駅伝を応援する会 城崎芳彦）

□ 碓井哲雄氏の近著

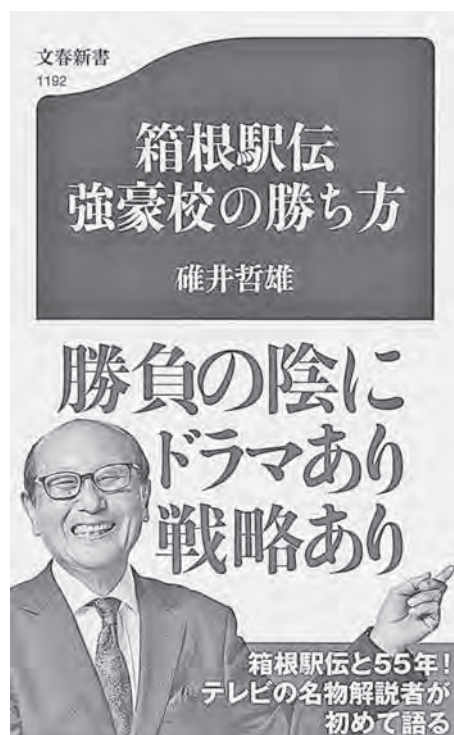
『箱根駅 伝強豪校の勝ち方』

（文春新書）で話題呼ぶ

〔勝負の陰にドラマあり、戦略あり〕

箱根駅伝の解説者として定評ある碓井さん（藤沢白門会）が、2020 年には 100 周年を迎える箱根駅伝をめぐって、箱根駅伝の歴史と強豪校の優勝への戦略など多彩な内幕を織り込んでまとめたもの。興味尽きない内容となっている。

不滅のわが中央大学 6 連覇、それを支えた先輩の涙ぐましい支援活動も紹介している。



第 11 回若手懇親ボウリング大会 & パーティー開催

平成 30 年 12 月 1 日 (土)、若手会主催によるボウリング大会 & 懇親会が、江の島ボウリングセンターで開催されました。日頃からボウリングに親しんでいる人や、十数年ぶりにボウルに触る人など、合計 12 名が参加し、盛況に行われました。

西尾雄一郎若手会会長の開会あいさつに引き続き、各チーム 3 人ずつに分かれ、4 レーンを使ってのゲームが午後 2 時過ぎにスタートしました。

ルールは、各自 3 ゲームを行い、そのうちスコアの高い 2 ゲームの点数を合計して順位を決めるというものです。ストライクを出したり、スペアを取ると、そこかしこから歓声が上がり、ハイタッチが飛び交っていました。中谷哲夫先輩は、唯一人マイボールとマイシューズを持参し、熟練の技を披露されていました。

和気あいあいとした雰囲気の中、あっという間に 3 ゲームが終了し、順位を気にしつつ、同センター内にある懇親会会場に皆で移動しました。

懇親会は、西尾若手会会長のあいさつ、片岡会長の乾杯でスタートしました。大皿に盛られた食べきれないほどの料理と、飲み放題のアルコールも進み、舌もなめらかに歓談も盛り上がりました。

懇親会が開始して 30 分程度した頃、集計が終わり、皆が気になっていた順位の発表が行われました。

12 位から順次発表していき、3 位西尾若手会会長、2 位川崎先輩ときて、栄えある優勝は片岡会長になりました。片岡会長は、優勝とハイスコア賞のダブルタイトルを獲得されました。若手はもっと頑張らないといけませんね。

順位に応じた賞品が全員に渡され、皆が楽しい気分でボウリングセンターを後にしました。

来年も若手会員の親睦を広げるために、ボウリング大会を開催しますので、「ボウリングやったことない」とか、「玉が重くて指が痛くなりそう」などと尻込みしている方にも是非参加して頂きたいと思っています。私も十数年ぶりにやりましたが、ボウリング楽しいですよ！



なんと優勝は片岡会長夫妻！
意外にも初タイトルです！！

(若手会副会長 大橋賢也)



古豪(?) 杉山先輩不在の中、
予測不能な混戦が幕を開ける！

社会福祉活動委員会

車椅子の寄贈に寄せて

今年度も、新春のつどいにおいて藤沢市へ車椅子2台を寄贈しました。5周年記念行事として車椅子3台を寄贈することから始まって、合計31台の車椅子を寄贈してきました。

総会や新春のつどいでの募金活動、各懇親会などで出た残金を寄付していただき車椅子購入の資金としています。会員の皆様の温かい志で毎年毎年継続して車椅子を寄贈できていることは、藤沢白門会の組織力の強みであると考えています。

さて、車椅子のことで思い出すことがあります。以前のことで、イギリスで車椅子の方が脱輪をしている場に居合わせた日本人の話がありました。その方は、手をさしのべようか迷ったそうですが、周りのイギリス人は誰も助けようとしなかったそうです。しばらくすると、車椅子の方が自力で立ち直り動き出したそうです。そうすると周りのイギリス人が拍手をし、そのまま立ち去ったのだということです。要するの、外国では自力で困難を克服することが尊ばれているのだということを紹介した話です。

日本では、電車などで「ただいまお客様をご案内しております。」というアナウンスが聞かれるようになり、駅の係員が車椅子の乗客を誘導する光景が普通に見られるようになりました。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、公共施設・機関のバリアフリー化も加速度的に進められています。障がいのある方に優しい心配りをし、手助けや支援をすることも大切なことですし、また外国のように自立の道を見守ることも大切なことなのでしょう。障がいのあるなしに関わらず、お互いに思いやりをもって人と接していきたいものだと思います。いずれにしろ、藤沢白門会は、車椅子の寄贈を続けることで、社会福祉に貢献していきたいと考えています。これからも皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

(社会福祉活動委員長 端山幸雄)





サークル同好会活動

《ゴルフサークル》

第33回ゴルフコンペを開催

2018年5月22日(火)に、快晴の五月晴れの中、第33回目となるゴルフコンペを大厚木カントリークラブ西→南コースにて開催した。当日の参加者は、8名で、優勝者は昭和45年理工学部卒の梅澤光世さん。絶好調の梅澤さんはベスグロも獲得した。参加者は、86歳となる長老の内田和男先輩(昭和30商)、久しぶりに参加の高橋紀男(昭和38商)・純子ご夫妻に澤田英樹(昭和49法)先輩で1組目、2組目は廣澤政夫先輩(昭和43理)、梅澤光世先輩、高橋茂さん(昭和60理)、西尾雄一郎さん(平成6)と、偶然にも理工学部卒でまとまって、文対理の一騎打ちの様相となった。

コースは、アップダウンがきつく、またグリーンが見えないホールが多く、若手でも登り下りに苦勞するようなコース。高齢の内田先輩にはかなり難儀だったようで、ふうふう言いながらのプレーとなった。それでも元気にプレーされたことは強靱な肉体と精神力の賜物と感心した次第。高橋紀男先輩も奥様の純子さんとともに和気あいあいとしてプレーを楽しまれた。

競技は、新ペリア方式で、優勝は梅澤光世さん、2位は広沢政夫さん、3位は高橋純子さん。スコアは次のとおりである。

優勝	梅澤 光世	グロス 83	ハンデ 9.6	グロス 73.4
2位	広沢 政夫	グロス 107	ハンデ 32.4	グロス 74.6
3位	高橋 純子	グロス 110	ハンデ 31.2	グロス 78.8



さーガンバルぞ！



「梅澤さん、おめでとう！」

前列左から高橋純子・梅澤光世・広沢政夫、後列左から高橋紀男・澤田英樹・内田和男・高橋茂・西尾雄一郎(敬称略)

県下白門合同ゴルフコンペ ～猛暑・強風の中で～

2018年8月17日(金)、名門相模原ゴルフクラブにおいて、相模原白門会が幹事となり、平成30年度県下白門合同ゴルフコンペが開催された。総勢26名が県内白門会から参加し、藤沢白門会からは澤田副会長と川俣事務局長の2名が参加した。

当日は、晴天に恵まれたが、気温33度の猛暑日となり、加えて10メートル近い強風が吹くコンディションとなった。1番390ヤードPAR4、強いフォローの中、筆者は残り160ヤードのセカンドショットを迷った末に9番アイアンを手にして、グリーン奥に乗せることができた。このことで、どのくらいの風が吹いているかがご想像いただけると思う。

また、相模原ゴルフクラブは、乗用カートがなく、キャディーさんが電動カートにゴルフバッグを積んで操縦し、プレーヤーは歩いてラウンドするスタイルとなっている。参加者は十分な水分補給を怠らないよう、熱中症に気を付けてプレーすることが必要だった。

加えて、関東アマの練習ラウンド指定日と重なり、普段でも早いグリーンは、固くしまって更にスピードを増していたため、参加者はおおむねパットに苦しむこととなった。

そうしたコンディションの中でも、無事全員がホールアウトすることができ、表彰式では元気に1日のプレーを振り返りながら、ゴルフ談義に花を咲かせた。結果は、萩原俊和氏が優勝となったが、何と県下合同白門コンペ3連勝であった。新ペリア方式では奇跡的な出来事であり、参加者一同強運の持ち主に大きな賛辞を送っていた。藤沢からの参加者2人の結果は次のとおり。

3位 川俣 誠	グロス 86	ハンデ 10.8	ネット 75.2
9位 澤田 英樹	グロス 101	ハンデ 22.8	ネット 78.2

「白門ゴルフ大会」への参加

2018年11月7日(水)、「第29回白門ゴルフ大会」が多摩市にある「桜ヶ丘カントリークラブ」で開催され、90名が参加した。これは、中央大学学会主催の大会で、当日は久野会長をはじめ、



筆者と久野会長

土方事務局長ほか学会事務局スタッフや中大ゴルフ部の現役学生などが運営にあたっていた。

以前からこうした大会があることは知っていたが、なかなか参加する機会にめぐまれずにいたところ、ようやく日程が合って、初めて参加した。事前に送られてきた組合せ表を確認すると、東京近郊の地域支部や年次支部、ゼミやサークルのOB会など、実に様々なグループがエントリーしていて、個人戦のみならずチーム戦も表彰の対象となっていた。個人の

順位は新ペリア方式で計算された結果に基づき決定されるが、チーム戦のほうは、4名のうち上位3名のネットスコアの合計で争われる。わがチームは私のほかに相模原白門会の篠宮さん、東京木曜会の竹内さん、相馬さんの4人となった。篠宮さんは既知の仲なので、まったく気兼ねなく接することができたが、他の二人は初対面ということもあり多少緊張したものの、同じ中大の同窓意識も手伝い、すぐにうちとけて、楽しくラウンドすることができた。

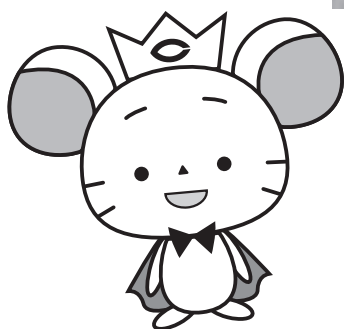
さて、会場となった桜ヶ丘カントリークラブであるが、1960年に開場した歴史のある名門コースで、多摩川沿いに広がる自然の地形を活かした名匠赤星四郎の設計によるものである。筆者は初めてラウンドしたが、都心から卑近な好立地条件の市街地によくぞこれだけのゆったりしたコースを作ったものだと感心した。もっとも1960年当時はまだまだ多摩地域は未開の地であっただろう。1957年に霞が関カンツリークラブで行われたカナダカップ（現ワールドカップ）で、世界の強豪を抑えて日本チームが優勝した。これが日本のゴルフブームに火をつけ、高度経済成長期も手伝ってゴルフ場もどんどん作られていった。そんなゴルフ場の中の一つだと思われる。

筆者の成績はグロス87と振るわなかったが、ハンデに恵まれて、ネット71.4で、4位となった。写真にあるとおり、久野会長から海産物の詰め合わせをいただいた。また、チーム戦は3位まで入賞だが、惜しくも4位で表彰を逃した。思った以上に気軽に参加できたので、次回は藤沢白門会で1チーム作って参加したいと思う。

（ゴルフサークル幹事 川俣 誠）



同じチームのメンバー 左から篠宮・川俣・竹内・相馬（敬称略）



《テニスサークル》

藤沢白門会テニスサークルでは7月22日（日）に善行テニスコートにて1コートをお借りしましてテニス練習会を開催致しました。昼間の12時から開始をして、当日は炎天下に加え猛暑の中での練習となりました。当日は5名が参加して、熱中症にならないように水分補給をしながら2時間汗を流して頑張りました。前半はウォーミングアップの軽い打ち合いからストローク練習、ボレーなどを行い、テニス技術の向上を図りました。後半はダブルスのゲーム形式で真剣勝負での試合が行われました。片岡会長は日頃よりテニスを行っていてサーブの切れ味は抜群です。永井さんは高校時代にテニス部で活躍されていました。試合はコートに4人が入り1人が休憩をしてメンバーの組み合わせを入れ替えをしながら、何試合かを行いメンバー同士のテニスの腕を競い合いました。休憩の間にはテニス好きなメンバー同士でテニスについてや、白門会での活動について語り合い、懇親が図られました。練習の終了後にはかき氷の差し入れを頂きまして熱くなった体をクールダウン。参加メンバー全員がいい汗をかいてとても気持ち良かったです。次回の練習会へ向けて改めてメンバーが楽しめる設営を致します。

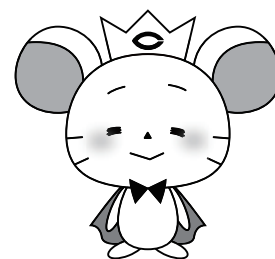


自然体の動きから放たれる
会長裂帛のサーブ！

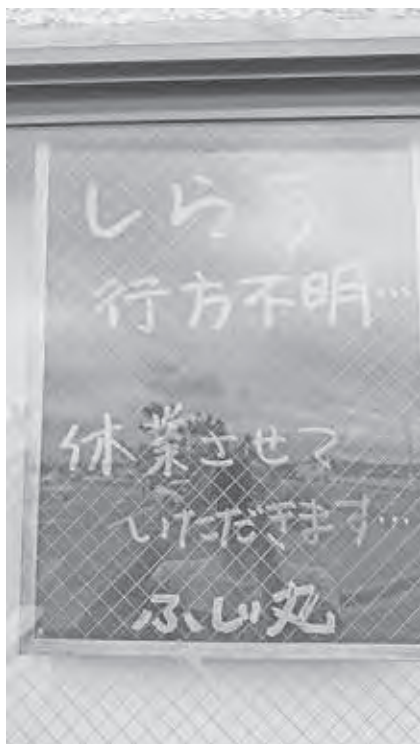
(テニスサークル 重田博章)



若手の皆様のご参加も、大募集中です！



《釣りサークル》



しらすが無情にも行方不明！

平成 30 年 9 月 15 日 (土) 6:30 に大磯漁港から出船。
昨年同様、今年も台風直撃ではないものの秋雨前線活躍で「雨」。
獲物は「マグロと戻りカツオ」

江ノ島沖 15 キロ付近で釣り開始。釣り船大集合！！私たちは貸切り船なので船上は楽々ですが、乗合船は釣り人でひしめいています。

獲物の数より釣り人の方が多いのは事実です。

参加者は、長田君と私と妻。それと釣り仲間二人の計 5 名。

半日近く楽しんで、釣果は長田君がカツオ 2 尾、私もカツオ 2 尾、仲間もそれぞれ釣上げ、船中で合計 12 尾でした。私の妻は、カツオも釣上げたどころか、マグロも取り込寸前までいきましたが、ラインブレイク！！そんなものですか。

来年も企画しますので、よろしくお願ひします。来年は、鯨船とカマス船の 2 回です。もしかすると戻りカツオも???

(釣りサークル幹事 大沼敬正)



貸切り船で悠々と釣り糸を垂らし、釣果を飲む楽しみ
釣りサークルでの休日を楽しんでみませんか

《囲碁サークル》

将棋の世界では、藤井聡太（七段）が2016年10月に弱冠14歳にしてプロ入りし、公式戦初対局でレジェンド加藤一二三（元名人・九段）を打ち負かした後、あれよあれよと云う間に7段にまで昇り詰めた事から大人気を博し、少年たちを含め一挙に将棋人口増加に貢献したと伝えられている。

囲碁の世界でも、今を時めく天才棋士井山裕太（29歳・七冠）は12歳でプロ入りし、「棋聖」「名人」「本因坊」「王座」「天元」「碁聖」「十段」の囲碁七大タイトルを総なめにする活躍を示し（但し、碁聖はH30年8月に20歳の若手棋士「許家元8段」に奪われた）ある意味藤井聡太以上の快挙ながら、マスコミの取り上げ方が地味なためか世間的には今一大きな評判となって居らず、囲碁ファンとしてはさびしい限りである。

私たちの身近な囲碁の世界として「湘南平塚囲碁祭り」と云う大きな催しが有ります。

平塚で故木谷實九段が全国から才能ある子供達を集めて育成した「木谷道場」から巣立った有名棋士たちが中心となって始められたイベントで、毎年10月パールロード商店街の道路を使ってプロ棋士が対局して呉れる「1000面打ち」は全国的にも例を見ない大掛りなものです。



碁盤がこれでもかと道を埋め尽くす壮観さの名物「1000面打ち」

平塚市は「囲碁の町平塚」を標榜し、まちづくり財団が中心となって青少年を対象に「囲碁教室」「囲碁大会」等に力を入れて居ります。

このような環境に恵まれて小中学生の囲碁熱は盛んであり、積極的に囲碁大会等への参加をしています。

井山裕太に次ぐ囲碁チャンピオンはこんな中から生まれて来るのではないのでしょうか？



プロ棋士が一面一面の戦況を見極めた上で、
最速最良の手が續々放たれる

我が囲碁サークルは藤沢白門会が「サークル」活動を開設した当初からの歴史を持つ同好会であり、活動回数に於いては最多実績を持つと自負しています。

会員数も最盛期は十数名を擁して居ましたが、残念ながら入会者はどうしても過去の囲碁体験者が主体となる事から新入会員が増えず、一方OB会の悲しさで全体的な老齢化の為退会する人も出て、現在は少数精鋭？4名にまで会員が減少してしまいました。

少数にはなりましたが、律儀にコンスタントな活動を続けて居り、奇数月の第3日曜日午後は「囲碁サロン湘南」を会場として会員同志の対局研鑽を重ね、偶数月の第4日曜日午後は「小糸市民の家」へ明治大学OB会「烏鷺会」を訪ね交流対局を重ねています。

平成30年度は、慶応大学「三田会」との交流対局も試みました。

高齢化による平均寿命の延びにより、お互いまだまだ沢山残された人生を楽しもうではありませんか！

その為にも脳味噌だけはしっかり鍛えておかなければなりません。

囲碁は脳味噌活性化のお手伝いをしてくれます。

「置き碁」と云うハンディキャップ方式で初心者から上級者まで同じ盤面で楽しめる対局方式の世界を是非覗いてみて下さい。

会員一同大歓迎でお待ちして居ります。



月一回の定例会をはじめ、藤沢白門会で
一二を争う活動実績を挙げております

(囲碁サークル幹事 中谷哲夫)

《緑と歴史散歩サークル》

平成 30 年度の緑と歴史散歩サークルは、恒例の例会を 1 回（第 58 回）開催したほか、いつものように川崎白門会主催の鎌倉散策に参加した。

第 58 回例会「大船フラワーセンターで身近な花を愛でる」

サークル会員の高齢化等により遠くの場所での開催が難しく、また長い距離を歩くことが困難となっていることから、今年度は身近なところでの例会開催とした。

大船フラワーセンターは、神奈川県内の観賞植物の生産振興と花卉園芸の普及のため、昭和 37 年（1962）に県農業試験場の跡地に開設された施設。大正年代から、この地で改良・育成された「シャクヤク」「ハナショウブ」や体系的に収集してきた「バラ」「シャクナゲ」などを中心に、国内外から収集した優れた観賞植物 3,000 品種余りを栽培・展示している。平成 30 年 4 月 1 日に日比谷花壇大船フラワーセンターとしてリニューアルオープンした。

第 58 回例会は、身近なところで散策を楽しもうということで、大船フラワーセンターで花を愛でることとした。

秋の晴天とは言え、好天に恵まれて暑いほどの 9 月 24 日（月）14 時に、JR 大船駅に会員 19 人が集合し、まず駅前の大船観音を目指した。

参道の急な上り坂は厳しく、一部の皆さんはタクシーで先にフラワーセンターへ先行された。汗を拭きふきのぼった先に大船観音はあり、日頃電車からも穏やかな観音様の顔が見える。大船観音は昭和の初めに観音思想の普及を図るため観音像建立工事が着手されたが、世界



大船観音にて

恐慌の中で寄付金が思うように集まらず、昭和 9 年に工事が中断し放置されていたものを東急グループや建築関係者等の努力により昭和 32 年に工事を再開し、昭和 35 年 4 月に落慶したもので、昭和 56 年 11 月 20 日には宗教法人として神奈川県から認証され今日に至っている。境内には原爆慰霊碑や原爆の火の塔もあり毎年 9 月に慰霊祭が行われている。観音像の胎内には 1300 体を超える千体仏が安置され、太平洋戦争での被災者や原爆被害者の供養と平和への願いを発信している。観音様の前で集合写真を撮り、休憩所で一服の涼をとった後、住宅地を抜けて大船フラワーセンターに向かった。

フラワーセンターでは、まず職員の方から園の概要や見所の説明を受け、各自それぞれに園内を散策し植物や花を楽しんだ。ただ季節のせいかわらを除いて咲いている花があまりなく緑の木々などの鑑賞が主であった。芝生広場には茨城県から来たオバケカボチャ（アトランテックジャイアント）が展示されており、触ったり、転がしたりしてその感触に親しんだ。また、グリーンハウスでは熱帯系の美しい植物や花を鑑賞したほか開催中の盆栽展を楽しんだ。

約 2 時間の散策であったが、身近なところで自由に楽しむということもサークルのあり方として良いかと感じた例会であった。

「鎌倉幕府滅亡！新田義貞の鎌倉攻め探訪―稲村ヶ崎から切腹やぐら・宝戒寺まで―」～川崎白門会主催の散策に参加

秋深し、とは思えないような好天に恵まれた11月10日（土）、川崎白門会主催の鎌倉散策に藤沢から参加した。10時に鎌倉駅に集合したのは川崎8人、藤沢4人の計12人のメンバー。江ノ電でまず出発地の稲村ヶ崎に向かう。天気のおかげか車内の人も多い。今回も案内は鎌倉市ガイド協会の丹澤芳明さん。



川崎白門会の皆様と

今回は、新田義貞が、元弘三年（1333）5月18日～22日にかけて鎌倉攻めを行い、鎌倉幕府を滅亡に追い込んだ稲村ヶ崎駅から鎌倉駅までの約10kmのコース。

稲村ヶ崎は、現在は公園として整備されており、海を隔て江の島からはるか富士山まで見渡せる絶景のスポット。この日も海のかなたに富士山がくっきりと浮かぶ。記念写真を撮りながら古の古戦場を偲ぶ。―七里ガ浜の磯づたい、稲村ヶ崎名将の剣投げし古戦場― 稲村の海に行く手を阻まれた新田義貞が竜神に祈りを捧げ、やおら剣を海中に投げ入れたら潮が退き、干上がって、磯伝いに岬の周りをまわって鎌倉へ攻め込んだという（太平記）。

ここから極楽寺、成就院、極楽寺坂、御嶽神社、稲瀬川を通り由比ガ浜海岸へ出る内陸のコースを辿り、由比ガ浜沿いの鎌倉海浜公園で昼食休憩となる。冷えたビールで喉を潤しながら古を偲ぶもR134の車の音やトンビが邪魔をする。

休憩後に、骨塚、九品寺、乱橋、東勝寺跡、腹切りやぐらと進み、宝戒寺で解散となる。山歩きの平坦な10kmの散策コースであったが暑さのおかげ汗と疲れがたまっていた一日であった。鎌倉駅前で軽く打ち上げて又の再会を期し散会した。

（緑と歴史散歩サークル幹事 澤田英樹）

《ワインサークル》

ワイン会、第一回目の会場に使われたのは藤沢駅南口から徒歩2分程のところにある CiPANGO というお店。

会長夫妻をはじめとする14名の方々が集まってくださいました。

このCiRANGOというお店、「チーズ×肉」を売りにしているだけあって、ワインによく合うメニューが豊富です。

記念すべきワイン会第一回の乾杯として注文したのは“Pol Messer Brut”というスパークリングワイン。

料理とのマリアージュを楽しみつつ、注文したワインは泡、白、赤と、全6種類。

次回以降のワイン会をどうしていきたいか等の真面目な事も語りつつ、他愛もない会話に花を咲かせ、あっという間に時間が過ぎていきました。

ワイン会の報告という事で、以下は、注文したワインを順番に書かせて頂きます。

“Pol Messer Brut”

フランスのスパークリングワイン。梨や白い花の繊細な香りに、青りんごを思わせる爽やかさ。きれの良い軽やかな辛口。

コース料理の初めに提供されたオードブル、生ハムやサラミ、オリーブ、ピクルスなどとの組み合わせも良く、あっという間になくなりました。

記念すべき一本目！



藤沢白門会のワイン好きが一同に会して「乾杯！」

以下

“San Simone Prestige Sauvignon Friuli Grave”

イタリアの白ワイン。ソービニヨンブランらしい青々した香り。まろやかな酸味で、すっきりした味わい。



この豪勢なオードブル！…に豪勢なお値段…

“valles-del-sur-chardonnay”

チリの白ワイン。フレッシュで清々しい香りは、熟したリンゴ、白桃、グレープフルーツ、パイナップルなど様々な果実の甘い香りが融合。なめらかで、酸味はさわやか。ボリューム感もしっかりありました。

“Madaudo Capovero Syrah”

シチリアの赤ワイン。香りはシラーらしいスパイシーさもあつつつ、食事を邪魔しない程度の重さで後味もすっきり。

“The Hedonist Shiraz”

オーストラリアの赤ワイン。樽香と果実味がバランスよく調和し、甘く丸みを帯びたタンニン。長めの余韻が楽しめるしっかりしたワイン。

コース終盤で出てきたステーキとの相性も非常に良かったです。

“Errazuriz Max Reserva Cabernet Sauvignon”

チリの赤ワイン。濃縮された果実味と程よい渋みで、ボリュームもあるコストパフォーマンスが高いワイン。

今回、食事はコース、飲み物は第一回という事で好みのボトルワインを楽しみたかったので飲み放題にはしませんでした。かなりの本数を見境もなくいただいてしまいコストもかなりの…(^^)

その後二次会もワイン酒場でまたワインを…そこからの記憶は…

次回以降は持込可能なお店でのワイン会やバーベキュー、ワイン工場見学など楽しめる企画を検討しております。是非気軽にご参加いただければと思います！！

(ワインサークル幹事 西尾雄一郎)



西尾・相原ツートップで皆様のご参加をお待ちしております！

《音楽鑑賞サークル》

中央大学スウィング部創部 75 周年記念コンサート「スウィング・クリスタル・オーケストラ」の華やかなステージの音楽鑑賞会からスタート、中央大学管弦楽団第 80 回記念演奏会で、G. マラーに挑戦、そのパフォーマンスに感動

平成 30 年新春、初めての音楽鑑賞会は中央大学音楽研究会スウィング部創部 75 周年記念コンサート「スウィング・クリスタル・オーケストラ第 60 回定期演奏会」（2 月 25 日・ヤクルトホール）で、第 1 ステージはレギュラー・バンドがキックオフ・ナンバー「It Don't Mean A Thing」で軽やかに、華やかに登場、Boogie Woogie をスペシャル・ゲストと共演して、7 曲を披露して盛り上げる。

第 2 ステージのジュニア・バンドでは Switch in Time、Time Stream など若さ溢れるパンチ力で 5 曲ほど演奏した。

第 3 ステージには満を持していた OB・OG バンドのシニア・バンドと卒業後、間もないヤング・バンドがそれぞれステージへ、Sing, Sing, Sing、My Way など 7 曲のパフォーマンス。

そしてラスト・ステージに再び、スウィング・クリスタル・オーケストラが登場して Departure、Smoke Gets In Your Eyesなどを演奏した。

アンコール曲では中村 洋スウィング部部长（兼コンサートマスター）がトランペット・ソロの素晴らしい音色で Ya Gotte Try を演奏し、レギュラー・バンドがスウィング部の輝く未来への出発に「Take the "A" Train」を演奏して伝統と実績を誇るスウィング部の創部 75 周年記念演奏会は終演となりました。



スウィング・クリスタル・オーケストラの華やかなステージ「It Don't Mean A Thing」



スペシャルゲストとレギュラーバンドの共演「Boogie Woogie」

春暖の季節 5月の音楽鑑賞会「中央大学管弦楽団第79回定期演奏会」(5月26日・オリンパスホール八王子)では、ホルン四重奏の美しい旋律ではじまるC. ウェバー／歌劇「魔弾の射手」序曲から始まり、続いて日本最古の交響曲と言われる山田耕筰／交響曲へ長調「勝鬨と平和」が演奏されてメイン曲のJ. ブラームス／交響曲第2番ニ長調へ、この最終楽章の金管楽器のファンファーレとティンパニーのパフォーマンスはホールを沸かせ、そしてアンコール曲とともに終演となりました。

炎暑・災害列島と化した日本の今夏、7月の「中央大学吹奏楽部～サマーコンサート2018～」(7月15日・オリンパスホール八王子)音楽鑑賞会では3部構成のステージを楽しみました。

I部オープニングステージで「音楽祭プレリュード」、「吹奏楽のための「ワルツ」」などが演奏され、II部ポップスステージではNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」の主題歌「Stand Alone (凜として立つ)」がアルトサクソフーン・ソロで主題を歌い上げてトランペット、トロンボーンへと受け継がれ、伴奏とともに流れゆく時代を表現していました。また、「ディズニー・ファンティレージュン!」ではディズニーの心弾む曲の数々を楽しむことができました。

III部メインステージのF. チェザリーニ／「アルプスの詩」は変わりゆくアルプスの情景を木管楽器、トロンボーン、オーボエ、ホルンとウィンドマシーンなどを駆使して日々時間ともに移り変わっていくアルプス情景が表現された素晴らしい演奏でした。アンコール曲は災害地の人々が一日も早く復興できることを願い、F. スパーク／「陽はまた昇る」が演奏されて夏のコンサートは幕を閉じました。

夏の厳しい暑さが冷めやらない初秋、恒例の音楽鑑賞会「第14回栄ゾリステン弦楽アンサンブルコンサート」(9月17日・栄区民文化センター・リリス)ではゲストにNHK交響楽団ファゴット首席奏者宇賀神広宣氏を迎えてV.A. モーツァルト／ファゴット協奏曲が演奏され、ファゴット・ソロの軽やかでわかりやすいファゴットの旋律を楽しむことができました。

メイン曲はJ. ブラームス／弦楽六重奏曲第1番でコンサートマスター山田慶一氏指揮のもと20数名に及ぶ女性パフォーマーが生き生きと快活に演奏、ドゥビエヌ／「ファゴット四重奏曲1番2楽章」のアンコール曲でもって暑さが続く秋の音楽鑑賞会「モーツァルトの世界」が終わりました。



平成30年最後の締めめに相応しい音楽鑑賞会は1998年のカーネギーホール公演など伝統と実績を誇る「中央大学音楽研究会中央大学管弦楽団第80回記念演奏会」(12月20日・ミュージア川崎シンフォニーホール)で2010年12月10日の中央大学創立125周年記念中央大学音楽研究会中央大学管弦楽団第64回定期演奏会以来、2回目のミュージア川崎シンフォニーホールで、「歴史と伝統と実績」のある中央大学管弦楽団第80回記念演奏会でした。

最初の演奏はA. ドヴォルザーク／交響詩「真昼の魔女」で第1部では田舎の素朴さ牧歌的なクラリネット、オーボエにより子供の可愛らしさや不機嫌さが表現され、弦楽器が母と子の感情の揺れ動きを、そして木管楽器、トランペットが巧みに奏でた。第2部はバスクラリネットが盛り上げて金管楽器が頂点となり魔女が出現して子どもを母親から奪いとろうとする場面を表現する。

第3部は変拍子が続く部分で魔女が母親と子どもの回りを踊ったり、グロテスクな魔女の踊りが繰り返したり、最後は楽器を増やし、盛り上げを見せて魔女が追い払われ落ち着きを見せてゆくさまをこと細かく奏でる。第4部は安心感を感じさせる弦楽器、悲しげなオーボエのソロ、木管楽器、2部で盛り上げた魔女の主題が金管楽器で再現され落ち着きのないリズムで崩れるようにして曲が終える。

珠玉のメインディッシュ曲はG. マーラー／「交響曲第5番嬰ハ短調」で第1楽章は高らかなトランペットのファンファーレから始まり、「葬送行進曲」と名付けられている楽章だけにゆったりとしたテンポから一転して情景が変わりトランペット、第一ヴァイオリン、ホルンなどにより急激に激情的に場面は展開し、そして落ち着いてトロンボーンからトランペット、フルートに受け継がれて低弦の激しいピッチカートでこの楽章が終わりました。第2楽章が低弦とファゴトの激しいで動機で始まって金管楽器がこれに呼応していく。嵐のような激しいこの楽章がティンパニーの一打で静かに閉じた。第3楽章は第1、2楽章から一転して明るい雰囲気になるが、拍子木により不気味な雰囲気にもなる。この楽章は「マーラーのホルン協奏曲」と言われるほどホルンパートの熱がはいったパフォーマンスが見せ場であり、一番ホルン奏者はじめホルンパートの醸し出すホルンの音色の素晴らしいパフォーマンスがこの楽章を盛り上げた。ことのほか感動した楽章でもありました。第4楽章は第3楽章までの管打楽器の華々しい音色の展開と異なり終始ゆっくりとしたテンポで曲想は非常に濃厚な中身となっている。第5楽章は前楽章の音を引き継ぐかのようにホルンから始まり、ヴァイオリンが応えて木管楽器により曲想も幸福感に満ち溢れた雰囲気になっていきます。終盤に金管楽器が再度、現れる。そしてクラリネットとトロンボーンが調和して歌い上げてやおら加速して歓喜の渦に巻き込むようにしてこの楽章を閉じる。



G. マーラーの超大曲を演奏して感動を与えてくれたパフォーマー

演奏が終わるや否やホール全体が割れんばかりの大喝采で包まれて興奮と感動の渦となり、いつまで経っても大拍手が鳴り止まないありさまでした。この「マーラー／交響曲第5番嬰ハ短調」を記念曲として演奏するには6か月以上もの間、熱き思いで厳しく弛みない練習があってこそ成しえたものと思います。特にホルンパートの女性パーformerが演奏の緊張感から解き放れて超大作をやり遂げた達成感の安堵でしょうか。涙した彼女たちの思いに感激し、感動して強く胸を打たれました。

伝統と実績を誇るこの中央大学管弦楽団「第80回記念演奏会」が心を豊かにしてくれた素晴らしい感動の音楽鑑賞会でした。

今年の音楽鑑賞会は年度前半に集中してしまいましたが例年通り、音楽好きの仲間にも声をかけて次記のコンサートにも出掛けました。

- 3月11日 認定NPO法人「湘南フィルハーモニー管弦楽団第38回コンサート」
(藤沢市民会館大ホール)
- 7月1日 「中央大学音楽研究会第60回ジョイントコンサート(クラシック部門)」
(パルテノン多摩 大ホール)
- 11月24日 「MONDAYNIGHT JAZZ ORCHESTRA 第45回定期コンサート」
(ヤクルトホール)

音楽鑑賞サークル(同好会)活動状況(30年2月以降)

2018(平成30)年

- 2月25日 第105回音楽鑑賞会(スウィング・ジャズ)開催(ヤクルトホール)
中央大学音楽研究会スウィング部創部75周年記念コンサート
「スウィング・クリスタル・オーケストラ第60回定期演奏会」
 - ・ 第1ステージ:レギュラーバンドがI'm Shoutin' Again, Love For Saleなどスペシャルゲストと共演Round Midnightなど7曲を演奏
ゲスト:内堀 勝(Arr.&Cond.) 小林正弘(Trumpet) 三塚知貴(Trombone)
 - ・ 第2ステージ:ジュニアバンドがWind Machine, Nica's Dreamなど5曲を演奏
 - ・ 第3ステージ:OB・OGバンドのシニアバンドがSpeak Lowほか3曲を、ヤングバンドがGroovin' ForwardなどOB・OGバンドで7曲を演奏
 - ・ 第4ステージ:レギュラーバンドがBlue Birdland, Left Aloneなど6曲で全ステージの演奏が終了

総合司会:宮本康幸(中央大学グリークラブOB)
ステージ司会:浅見一輝(中央大学スウィング部OB)

- ・ アンコール曲:Ya Gotte Try 中村 洋(バンドマスター・コンサートマスター)
Take the "A" Train レギュラー・バンド

○ 5月26日 第106回音楽鑑賞会（クラシック）開催（オリンパスホール八王子）

「中央大学管弦楽団第79回定期演奏会」

- ・C. ウェーバー： 歌劇「魔弾の射手」序曲
- ・山田耕筰： 交響曲へ長調「勝鬨と平和」
- ・J. ブラームス： 交響曲第2番ニ長調 Op.73
- ・アンコール曲： J. ブラームス作曲 ハンガリー舞曲第1番

コンサートマスター：渡邊寛生

常任指揮者：佐藤寿一

○ 7月15日 第107回音楽鑑賞会（クラシック）開催（オリンパスホール八王子）

「中央大学吹奏楽部～サマーコンサート2018～」

・ I部 オープニングステージ

- | | | |
|-------------------|-----------|---------|
| 音楽祭のプレリュード | 作曲 A. リード | 指揮 林 紀人 |
| 吹奏楽のための「ワルツ」 | 作曲 高 昌帥 | 指揮 穂田智範 |
| コンサート・マーチ「虹色の未来へ」 | 作曲 郷間幹男 | 指揮 穂田智範 |
| 久堅の幹 | 作曲 長生 淳 | 指揮 穂田智範 |

・ II部 ポップスステージ

- | | | |
|---------------------|----------------|---------|
| ラプソディック・セレブレーション | 作曲 R. シェルドン | 指揮 林 紀人 |
| Stand Alone（凛として立つ） | 作曲 久石譲／編曲 高橋宏樹 | 指揮 瀧口弘高 |
| ジェラード・コン・カフェ | 作曲 真島俊夫 | 指揮 大谷祐樹 |
| ディズニー・ファンティリレーション！ | 編曲 星出尚志 | 指揮 林 紀人 |

・ III部 メインステージ

- | | | |
|-------------------|--------------|---------|
| アルプスの詩 | 作曲 F. チェザリーニ | 指揮 林 紀人 |
| ・アンコール曲「ディスコ・キッド」 | 作曲 東海林 修 | |
| 「陽はまた昇る」 | 作曲 F. スパーク | |

司会 石尾和子

○ 9月17日 第108回音楽鑑賞会（クラシック）開催（栄区民文化センター・リリース）

「第14回栄ゾリステン弦楽アンサンブルコンサート」

- ・G. ホルスト：セントポール組曲 Op.29
- ・W.A. モーツァルト：ファゴット協奏曲 変ロ長調 K.191
ファゴット独奏 宇賀神広宣 指揮：山田慶一
- ・J. ブラームス： 弦楽六重奏曲 第1番 変ロ長調 Op.18
コンサートマスター：山田慶一
- ・アンコール曲： ドゥビエンヌ／「ファゴット四重奏1番2楽章」

○ 12月20日 第109回音楽鑑賞会（クラシック）開催（ミュゼ川崎シンフォニーホール）

「中央大学管弦楽団第80回記念演奏会」

- ・ A. ドヴォルザーク：交響詩「真昼の魔女」
- ・ G. マーラー：交響曲第5番 嬰ハ短調
 - 第1部 第1楽章（葬送行進曲 正確な歩みで、厳格に、葬送の列のように）
 - 第2部 第2楽章（嵐のように激しく、最大の激烈さを持って）
 - 第3部 第3楽章（スケルツォ 力強く、速すぎずに）
 - 第3部 第4楽章（アダージェット とてもゆっくりと）
 - 第3部 第5楽章（ロンド・フィナーレ アレグロジョコソ 新鮮に）

コンサート・マスター：渡邊寛生

常任指揮者：佐藤寿一

なお、音楽会プログラムを参考に記載させていただきましたことを申し添えます。

末尾となりましたが中央大学音楽研究会中央大学管弦楽団の役員および団員の方々には、音楽鑑賞会の開催に当たり一方ならぬご高配をいただきました。心から感謝申し上げます。

（音楽鑑賞サークル幹事 座間 毅）



《白門サロン会》

第57回サロン会は、平成30年9月24日(日)、藤沢さいか屋8階レストラン街にある喰処酒処「花鳥風月」で開かれ、21名の仲間が参加しました。「花鳥風月」でのサロン会は平成23年7月3日(第41回)以来であり、当日は大船観音、大船フラワーセンターを散策した「緑と歴史散歩サークル同好会」の会員も加わり、懇親を兼ねて一緒に美味しい料理を楽しむことができました。



今回は、藤沢白門会の拠り所へ



お酒も回り、慣れたお店のこともあって
歓談に花が咲く



緑と歴史散歩サークル幹事の
澤田さんも一緒に



右端はボディガードらしい(?)のですが…
ちゃっかり呑んでおります！

なお、第58回サロン会は、平成31年2月17日(日)に2年ぶりとなるイタリアレストラン「ポルトヴィーノ」にて開催予定です。

白門サロン会は現在約40名が会員で構成されています。食べること、飲むこと、そしてしゃべることが大好きな方は、幹事までお知らせください。次回開催時にご案内申し上げます。

(白門サロン会幹事 林 孝靖)

文芸・文化コーナー

この度、新しく文芸・文化コーナーを設けました。

会員のみなさま、ならびにご家族のみなさまのご投稿を歓迎いたします。

俳句、絵、書道、その他文芸・文化的なことをされていまして、何でも結構です。

お気軽に紹介していただければありがたいです。

連絡先 会報委員長 吉田弘明

藤沢白門俳句

服部

治（昭和三十五年法卒）

公園を掃く背に桜散りにけり
渤海の切り立つ崖の夏の鷹
赤べこの首のゆうらり秋の風
雪吊りの雪なき景を支えつつ
駅伝の襷二日の日の中を



本号より「藤沢白門俳句」の紙面を設けました。
初回は服部治会員に登場いただきました。
掲載句は、『俳風画風・百句』（リンケージ・パブリッシング刊）より抜粋しました。



絵手紙を画く

昭和 41 年経済学部卒
石原昭憲

脳梗塞で倒れた。必死のリハビリで何とか車椅子や寝たきりを免れたが、ゴルフをはじめジムでの運動は断念した。「脳にも良いし、最高のリハビリです。ぜひ続けなさい。特にマヒした左手を使ってみたら……。」



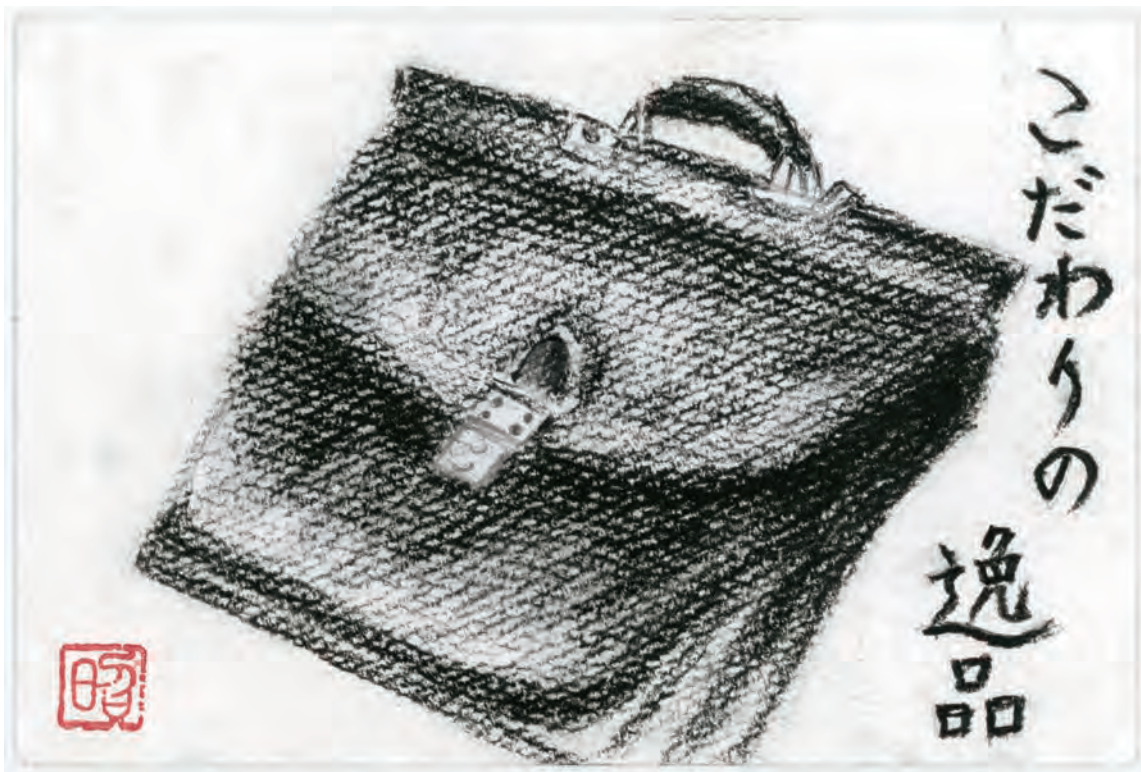
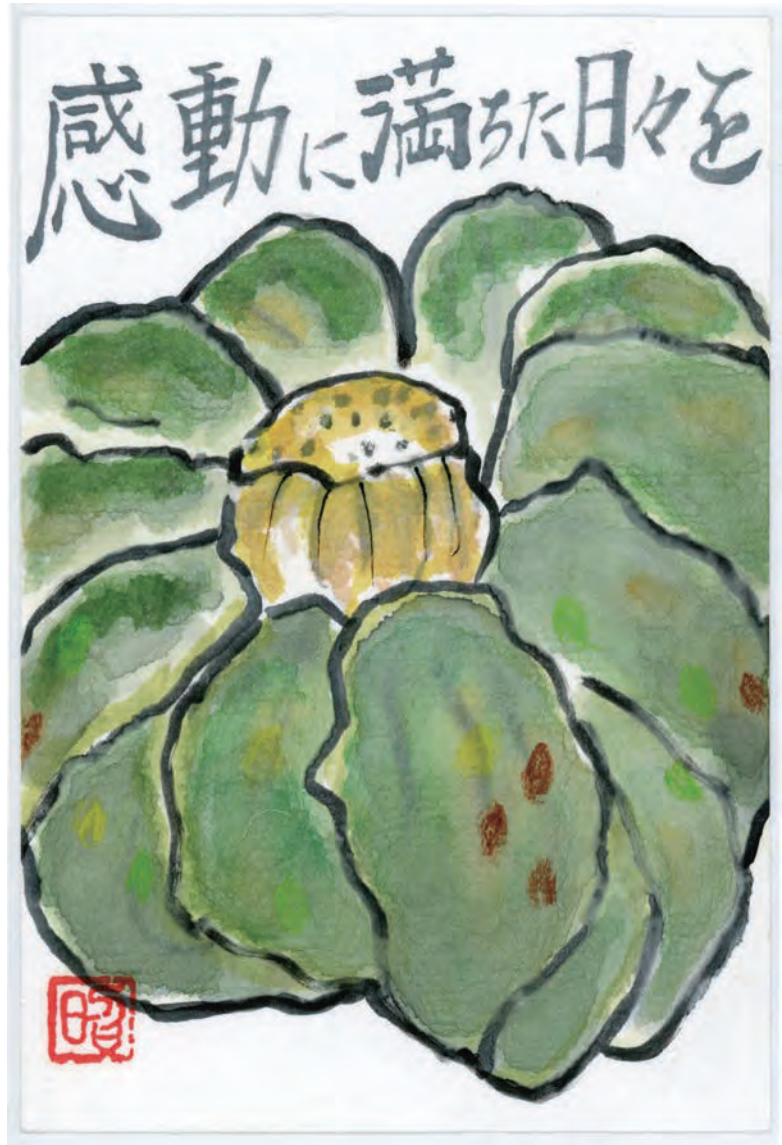


主治医の言葉が後を押してくれた。好みの画材に感性だけで自由に言葉を添えるハガキ一枚のアートに、忘れかけている絆や郷愁を呼び起こす力が秘められているように思う。



デジタル全盛の現代、超アナログ的な絵手紙にゆるやかではあるが、真の人間性を感じ、心が柔らかくなる。絵手紙を続けている訳である。

—完—



美術（色鉛筆画・書道について）

昭和 44 年経済学部卒 城崎芳彦

*色鉛筆画

私は知らなかったですが、10年前に女房が通信教育で色鉛筆画を習っており、5年前に私が仕事を退職して何かを習おうか思っていたら女房が押し入れから、色鉛筆の教材（72色）を出してきて、廃棄しよう思っており、金額を聞きました所、約5万円で購入したとの事でした。勿体ないので私が利用しようと思ひ、時々女房に色の配分等を教わりながら、今日に至っております。

主に風景画で3年前から藤沢市美術展に出展しておりますが、なかなか上達しません。



第 66 回 作品名「とうもろこし」



第 67 回 作品名「栃木県益子町 古民家」

第 65 回 作品名

「さびしさのうれしくもあり秋の暮 与謝 蕪村」

*書道

10年前神奈川県立小田原高等職業技術校に勤めていた時、学校で就職担当をしていましたので履歴書・職務経歴書の書き方を教えておりましたが、生徒からお手本を書いて欲しいと要請があり、あまりにも字が下手でしたので、それから月2回湘南モールのカルチャー文化センターの書道教室に通っています。

教えて頂いている先生は京都にある「水穂会」の方で主にな・漢字（楷書・草書等）を習っておりますが、こちらも中々上達しません。



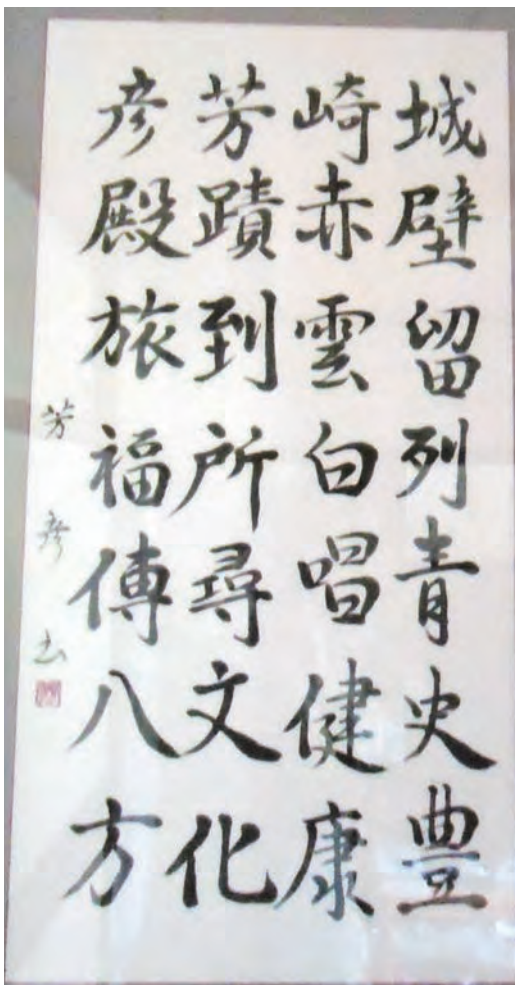
第 66 回 作品名

「城崎芳彦殿に捧ぐる漢詩」

城壁に留列する青史豊かなり
崎赤雲白健康を唱う
芳跡到る所に文化を尋ねる
彦殿旅福の八方に伝傳わる

（貴方はあちらこちら（八方）を尋ね、歴史や文化を学び、健康であると共に幸福な旅行をすることでしょう）

これは35年前に台湾に行った時に友人から掛け軸を頂き、飾っておりましたがボロボロになりましたので新しく書きました。



◆◆母校の近況◆◆

オープンキャンパスに参加して

母校を卒業してから、40年以上も過ぎました。10月6日、初めてオープンキャンパスに参加してきました。来年(この4月)に新たに開設される国際情報学部です。JR市ヶ谷駅を出て、少し歩くと「中央大学」と大きく標された高層ビルディングが見えてきました。まさにこれが我が中央大学国際情報学部の校舎です。愛称はiTLと言うそうです。“Information Technology & law”の頭文字と“Ichigaya Tamachi Link”の頭文字を表しています。この学部は、情報のしくみと情報法学の融合、また市ヶ谷田町キャンパスは情報のつながりとなる学び舎になる、を目的としているとのことでした。



オープンキャンパスのプログラムは、担当者からの学部の概略説明、そして担当教授よりの模擬講義という流れです。模擬授業は「ロボット法」というテーマで、素人にもわかるような楽しく面白い授業でした。2時間程の時間設定でしたが、あっという間に終わってしまったという感覚でした。参加者は高校生とその保護者の100名程で、みなさん真剣に聞き入っていました。

私たちが学生だった頃は、大学の学部と言えば法学部、経済学部、商学部、文学部、理工学部といったオーソドックスな学部ばかりでしたが、最近はユニークな学部が増えてきたものです。それだけ、学生の興味も多種多様、職業も多種多様になってきているということでしょうか。

(副会長 吉田弘明)

平成 30 年 6 月 18 日

支部長各位

中央大学学員会本部事務局
事務局長 土方善明

「支部対抗！中央大学ブランド力向上企画コンテスト」事業企画の募集について

平素は、学員会の事業及び活動に対し、ご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年 5 月開催の定時協議員会、定時学員総会において、本年度の学員会の事業目標として「更なる行動による学員（支部）交流と大学ブランド力の向上を目指して」が掲げられました。

そこで上記の目標を推進させるために今年度の新たな事業の一つとして承認されました、学員会本部事業の「支部対抗 1 中央大学ブランド力向上企画コンテスト」事業企画に関する実施要領等を下記の通り、ご送付いたします。

つきましては実施要領をご確認の上、本事業のテーマに合致する企画につき、若手学員や関係される現役学生（準学員）らに働きかけて頂き、振るってご応募くださいますようお願いいたします。

多くの支郡からのご応募をお待ちいたしております。

記

- ・「支部対抗！中央大学ブランド力向上企画コンテスト」実施要領
- ・参考資料
 - ①学校法人中央大学「中長期事業計画（Chuo Vision 2025）」（抜粋）
 - ②日経BPコンサルティング「大学ブランド・イメージ調査」結果について

締め切り 平成 30 年 8 月 31 日（金）必着

(問い合わせ先)

中央大学学員会本部事務局

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台 3-11-5

TEL : 03-3219-6175 FAX : 03-3219-6177

Eメール:b·con@tamajs.chuo-u.ac.jp

「進学アドバイザー制度」の創設と活用

1 「進学アドバイザー制度」の創設

学会に「進学アドバイザー制度」を創設する。学会が神奈川県内の支部・白門会に依頼して数名選出してもらい、これを「進学アドバイザー」として任命する。高校を訪問するときは、必ず2名1組で対応する。

2 「進学アドバイザー」の役割

「進学アドバイザー」は、認証カードをもとに神奈川県内の高校に出向いて、中央大学への進学を積極的にアピールし、高校との密接な関係を築くことにより中央大学の受験者数や合格者数を伸ばす努力をする。

3 「進学アドバイザー」の認証

「進学アドバイザー」がアピールするために必要な大学の宣伝知識は、学会がウェブサイト上に掲示（機密事項も含まれる場合があるためパスワードを設定）し、「進学アドバイザー」はこれを習得することを必須条件とし、習得した者に対して学会が認証カードを発行し、大学や学会における公式な立場であることを認証する。

4 訪問する高校

訪問する高校は、神奈川県内の高校から「進学アドバイザー」が抽出し、中央大学入試センターと相談して決定する。

5 費用

以下の費用を学会が負担する。

(1) 交通費・日当

一人 5,000 円×2 名×44 日 = 440,000 円

※ 44 日の根拠…今年神奈川県内の高校で 15 名以上の中央大学志願者があった高校おおむね 130 校を 1 日 3 校訪問した場合にかかる日数

(2) お土産代

130 校×2,500 円 = 325,000 円

6 全国への波及

以前「志願者獲得戦略会議」を神奈川県内の支部・白門会が先行して開催した経緯があるため、まず神奈川県内の支部・白門会が率先垂範し、効果等の検証を行ったうえで、全国の支部・白門会へ展開できればと考える。

以上、藤沢白門会からの提案とします。

2019年4月—中央大学に26年ぶりに新学部が誕生—

国際社会を牽引するリーダーを育てる2つの学部—
 国際経営学部が多摩キャンパスに開設決定。
 国際情報学部が市ヶ谷田町キャンパスに開設。

■ 国際経営学部 国際経営学科 (2019年4月開設)

イギリスのEU離脱、中国・ASEAN諸国の経済勢力の伸長、アメリカの保護主義の台頭など、グローバルビジネスの環境が激変する中、企業活動を通じてグローバル共生社会の構築に貢献することができる人材が求められています。

国際経営学部(定員300名)が目指す、育成する人材像は、ビジネスとエコノミクスの幅広い知識を育てるに加え、高度な英語運用能力と国際的ビジネス感覚を身に付けた、グローバルビジネスリーダーです。

国際経営学部における中央大学初の試みが三つあります。一つめは、設置科目の7割以上が外国語(主に英語)で行われ、卒業に必要なすべての単位の修得が外国語(英語)で可能になるという点です。最先端の国際経営学をビジネスの公用語である英語で学ぶことにより、グローバルビジネスリーダーの素養を養います。

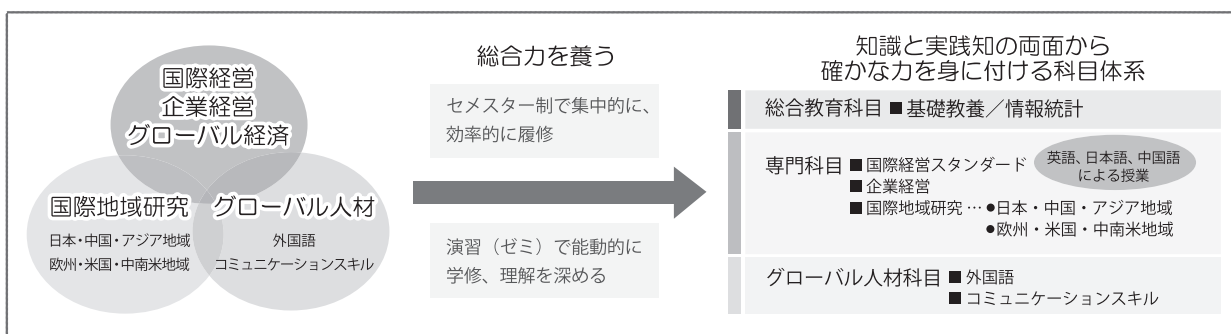
なお、学部として専門科目(経営学)を英語で教えるという取り組みは、日本でも中央大学が初めてとなります。

二つめは、海外短期留学(3~4週間を予定)を1年次必修とした点です。海外で異文化に触れ、また留学先でも経営学を学ぶことにより、4年間の学びのモチベーションを高める機会となることが期待されます。

三つめは、秋入学を実施するという点です。秋入学は世界の主流であることから、高校を卒業したばかりの世界中の学生が、春入学を待つことなく入学することができます。

このように、学部内に「内なる国際化」を実現し、グローバルビジネスリーダーを目指す学生たちが切磋琢磨できる環境を整えています。

国際経営学部・学びの概念



■ 国際情報学部 国際情報学科

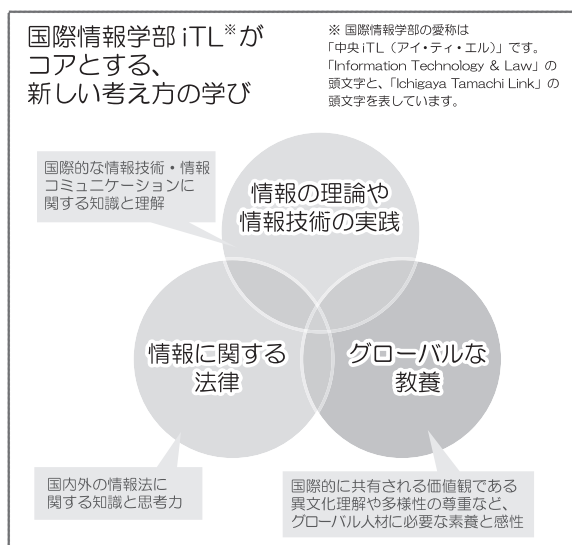
ICT技術が進化し、AI(人工知能)等の新しい技術によって、これまで「できなかった」ことが「できる」ようになっていきます。しかし、技術の進化で「できること」がすべて「行ってよいこと」とは限りません。

時には技術の進度が速すぎるあまり、その技術がもたらすサービスが人々の価値観、社会通念や慣習を越え、人々に悪い影響を与えることもあります。

国際情報学部では、これらの技術が社会や人々に与える問題に対して、情報技術と、規制するルールや社会で活用するためのルールといった視点から解決策を導き、社会への実装を提案していきます。また、ルールを作るためには、それが社会に受容されるかどうかといった、国際的に共有される価値観や異文化の尊重等の視点も重要であると考えています。

情報の仕組み、情報の法律、および国際的に共有される価値観等の専門知識を学び、これらの視点を統合することによって解決策を導きだし、将来の変化にも柔軟に対応できる力を身に付けます。

国際情報学部・学びの概念



*掲載内容は予定であり、変更になる場合があります。

千葉景子顧問より、叙勲のメッセージをいただきました

藤沢白門会のみな様には平素ひとかたならぬご厚情にあずかり心からお礼申し上げます。

さて私こと昨年秋 旭日大綬章の栄に浴しました。

昭和に生まれ、弁護士から国会議員として活躍の場をいただきましたのが昭和から平成にかけて、そして平成の半ば、法務大臣を務めさせていただきました。はからずも平成最後の秋の叙勲に名を連ねることになり、感慨もひとしおです。この度の受章は常に変わらず支えご指導を賜ったみな様なしではあり得ぬことであり、改めて感謝申し上げます。

とりわけ藤沢白門会のみな様とは同窓仲間として特段のご厚情を賜り、国会見学、大臣室訪問などの機会も得て、親しく交流をさせていただき、それが現在も変わらず続いておりますこと何より嬉しい限りです。

今後も藤沢白門会のメンバーとして末永くおつきあい下さい。

千葉 景子

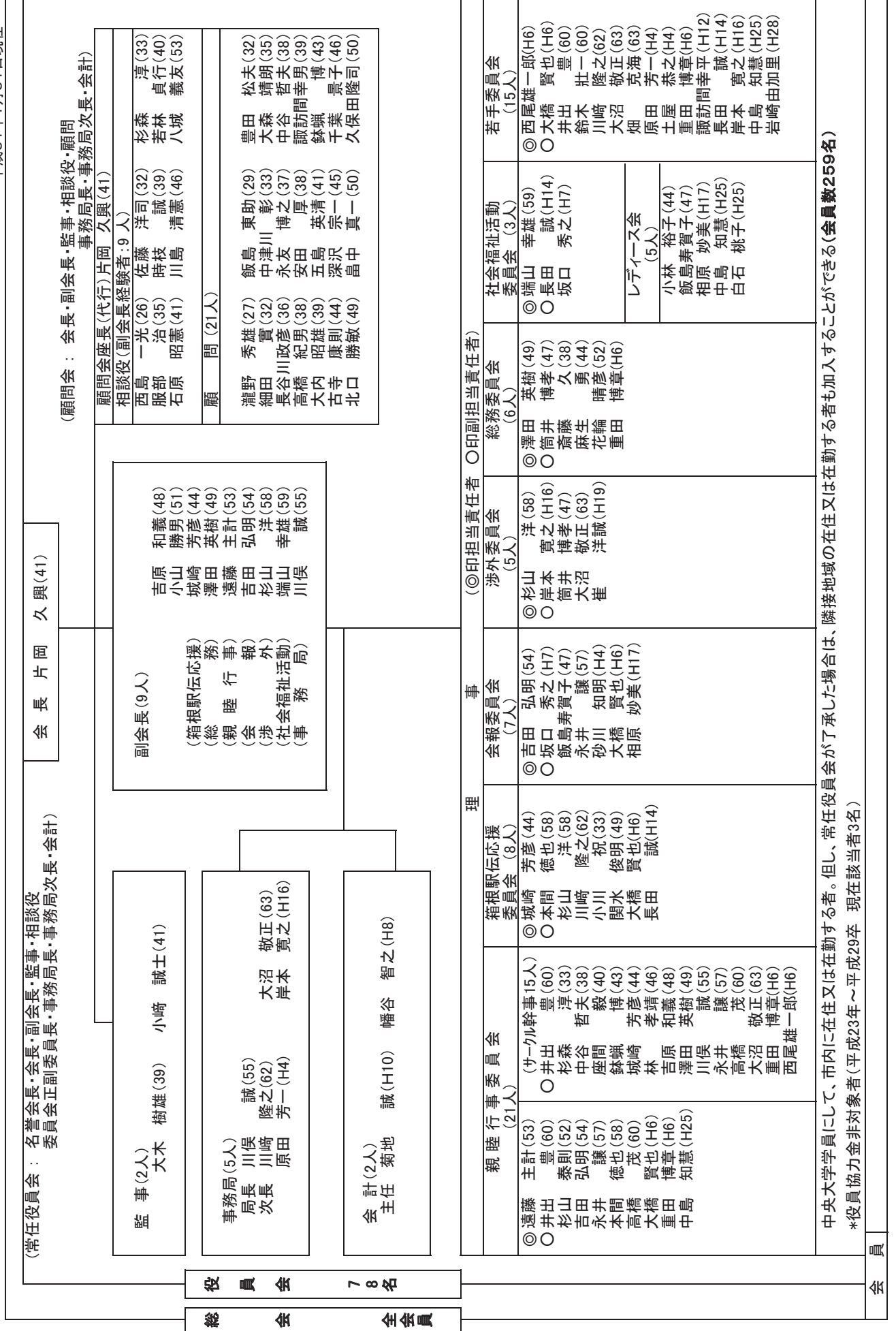




組 織 図

中央大学学員会藤沢白門会組織図

平成31年1月31日現在



□新入会員（入会日順）～よろしくお願ひいたします□

平成30年

5月	本庄	卓磨	様	平成23年	法学部卒
5月	伊藤	正和	様	平成14年	商学部卒
6月	小林	智己	様	昭和59年	理工学部卒
6月	富永	大気	様	平成25年	商学部卒
8月	塚本	博信	様	平成9年	経済学部卒
9月	長嶋	勇輝	様	平成28年	法学部卒
12月	藤本	恵祐	様	昭和59年	法学部卒
12月	村山	宏	様	昭和58年	経済学部卒
12月	村山	恵美子	様	昭和57年	文学部卒

平成31年

1月	北川	秀	様	平成30年	総合政策学部卒
1月	砂川	舞	様	平成30年	商学部卒
1月	伊藤	淳朗	様	平成30年	経済学部卒

物故会員 謹んで哀悼の意を表します

平成30年

	ご逝去	長谷川武夫	様	昭和26年	法学部卒
3月27日	ご逝去	三觜喜郎	様	昭和35年	法学部卒
5月1日	ご逝去	金子繁夫	様	昭和33年	経済学部卒
6月	ご逝去	秋岡典和	様	昭和23年	法学部卒
6月3日	ご逝去	河合卓爾	様	昭和25年	法学部卒
11月9日	ご逝去	野口義之	様	昭和34年	経済学部卒
11月11日	ご逝去	金田裕俊	様	昭和33年	法学部卒

藤沢白門会讃歌（新曲）

中央大学学生会藤沢支部

作詞：服部 治

作曲：藤沢 健児

1 いま湘南に ひかり溢れて
前へ 集い会う
心豊かに 人生の季節を映し
意気を新たに 肩寄せて
讃えよう 中央 讃えよう 中央 中央
われら 藤沢白門会 ここに在り

2 この街に愛 響かせて広く
前へ 目を開き
心静かに ふるさとの山川思う
時は流れて 歳月を
讃えよう 中央 讃えよう 中央 中央
われら 藤沢白門会 ここに見る

4 あの松風も さわやかに吹く
前へ 友と手を
心昂めて 潮騒を遠くに聴けば
若き日近く 想い来る
讃えよう 中央 讃えよう 中央 中央
われら 藤沢白門会 ここに立つ

藤沢白門会讃歌

(いま湘南に)

作詞：服部 治

作曲：藤沢 健児

行進曲風に

(1) い ま

♩ - 80

しょう ー なん に ひか り あ ふ ー れ て ま え
 まち に あ い ひび か せ ひ ー ろ く ま え
 ま つ か ぜ も さ わ や か に ー ふ く ま え

へ つ ど い あ う こ ー こ ろ ゆ た か に
 へ め を ひ ら き こ ー こ ろ し ず か に
 へ と も と 手 を こ ー こ ろ た か め て

じん せい の き せ つ を う つ し い き を あ ら た に か た よ せ て た た
 ふ る さ と の や ま か わ お も う と き は な が れ て と し つ き を た た
 し お さ い を と お く に き け ば わ か き 日 ち か く お も い 来 る た た

え よ う 中 一 央 た た え よ う 中 一 央 中 央 わ れ
 え よ う 中 一 央 た た え よ う 中 一 央 中 央 わ れ
 え よ う 中 一 央 た た え よ う 中 一 央 中 央 わ れ

(1)・(2)
 ら ふ じ さ わ は く も ん かい こ ー こ ー に あ り (2) こ の
 ら ふ じ さ わ は く も ん かい こ ー こ ー に み る (3) あ の
 ら ふ じ さ わ は く も ん かい こ ー こ ー に 立

(3) *Fine*
 っ

rit

中央大学校歌

石川達雄 作詞
坂本良隆 作曲

一、草のみどりに風薫る
丘に目映さ白門を

慕い集える若人が
真理の道にはげみつゝ、
栄ある歴史を承け伝う
ああ中央 我等が中央
中央の名よ光あれ

二、よしや嵐は荒ぶとも
揺がぬ意気ぞいや昂く

春の驕奢の花ならで
みのりの秋やめざすらむ
学びの園こそ豊かなれ
ああ中央 我等が中央
中央の名よ誉あれ

三、いざ起て友よ時は今
新しき世のあさぼらけ

胸に血潮の高鳴りや
湧く歌声も晴れやかに
自由の天地ぞ展けゆく
ああ中央 我等が中央
中央の名よ栄あれ

藤沢市の花



フジ

藤沢市の木



クロマツ

中央大学応援歌

中央大学学生会編
古岡祐而 作曲

一、憧れ高く空ひろく
理想の光あやなせる

ああ中央の若き日に
伝統誇る白門の
闘い挑むはた仰げ
力、力、中央、中央

二、情熱と力の若人が
精鋭こそりふるいたつ

ああ中央の若き日に
雄叫ぶ血汐 紅は
闘魂たぎる火と燃える
力、力、中央、中央

三、我等が誇り覇者の歌
さんたり栄光我が生命

ああ中央の若き日に
今ぞ座らん覇者の座に
いざ勝どきを揚げんかな
力、力、中央、中央

惜別の歌

作詞 島崎藤村
作曲 藤江英輔

一、遠き別れに耐えかけて
この高樓にのぼるかな

悲しむなかれわが友よ
旅の衣を整えよ

二、別れとといえば昔より
この人の世の常なるを

流るる水を眺むれば
夢はずかしき涙かな

三、君さやけき目の色も
君くれないの唇も

君がみどりの黒髪も
またいつか見んこの別れ

藤沢市の鳥



カワセミ

お 願 い

1 会費納入のお願い

会員各位におかれましては、日頃白門会活動にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

藤沢白門会は会員相互の親睦を深めるため、会員の皆様の積極的なご参加のもと、各種行事・催事を数多く開催いたしておりますが、この藤沢白門会の運営は、会員の皆様にご負担いただいております貴重な会費収入により支えられおり、今後も活動を継続していく上で、安定した会費収入は不可欠なものでございます。

ご失念のため未納付と思われる会員におかれましては、会員各位の会費により藤沢白門会の運営がなされていることをご理解のうえ、早急に納付していただきたくお願い申し上げます。なお、納付方法等につきましては、会計担当にご確認いただきたいと思います。重ねてお願い申し上げます。

2 白門飛躍募金のお願い

会員各位におかれましては、既に学員時報等でご承知と存じますが、中央大学の中長期事業計画実現に向けて、『白門飛躍募金』のご案内がお手元に届けられていると思います。

藤沢白門会としましても、中央大学のさらなる発展に寄与すべく、会員各位に募金趣意書の趣旨をご理解いただき、寄付金のご協力を賜りたく、重ねてお願い申し上げます。

編集後記

今年、平成31年です。平成最後の年であり、この5月からは新しい年号になるとても意義深い年です。新天皇即位に係わる祝日も重なり、5月には10連休になるようです。何かいろいろ楽しいことが起きそうな予感のする年です。

さて会報23号がようやくできあがりしました。昨年、委員長を引き継ぎました。前任者ほどの経験もなく、暗中模索というか、手探りの中で編集作業を進めてきました。9月の第1週に初回の会報委員会を持ちました。その折りには、会報の内容の検討や原稿執筆者の選定を行いました。その後、委員会メンバーはそれぞれの役割分担にそって仕事を進めていくことになりました。幸いにして会員みなさまの協力もあり、原稿を順調に集めることができました。ありがとうございました。

今回の会報には新しい企画を設けました。文芸・文化コーナーです。藤沢白門会は酒ばかり飲んでいるわけでありませぬ（失礼をお許しください）。文化教養面での高さもあります。そんな潜在的な素晴らしさを示すべく設けました。初回は、服部氏（俳句）、石原氏（絵手紙）、城崎氏（色鉛筆画・書道）にご登場いただき、素晴らしい才能をご披露していただきました。まさに「藤沢白門会ここにあり」です。

本誌の発行にあたり、原稿を投稿していただいた会員各位をはじめ、多大なご協力をいただきました多くの方々に対し、末筆ながらこの場を借りて、心より御礼申し上げます。

(ヨッシー)

発行・中央大学学会「藤沢白門会」

〒251-0032 藤沢市片瀬4-4-15

会長 片岡久興

(電話・FAX 0466-26-8402)

Web・<http://www.fujisawa-hakumonkai.jp>

編集・「藤沢白門会」会報委員会



発行日・平成31年3月1日

印刷・社会福祉法人 光友会

神奈川ワークショップ

〒252-0826 藤沢市瀬郷1008-1

(電話 0466-48-1503 FAX 0466-48-1504)